

芦屋市将来人口推計報告書

平成27年3月

芦 屋 市

目 次

はじめに	1
1 人口の動向の整理	2
(1) 人口の動向	2
ア 芦屋市人口と年齢構成	
イ 小学校区別人口と年齢構成	
(2) 自然増減と社会増減の動向	15
2 既存人口推計と実績人口の比較・検討	18
(1) 総人口，年齢別人口の比較・検討	18
(2) 推計要因の動向と比較・検討	27
3 将来人口推計	30
(1) 推計条件の設定	30
(2) 推計方法の設定	31
(3) 推計要因の設定	35
(4) 将来人口推計結果のまとめ	40

はじめに

第4次芦屋市総合計画後期基本計画の策定に際し、直近の人口動向の把握と平成22年（2010）3月に行った将来人口推計と実際との比較により、人口推計の検証を行うとともに、将来人口推計に際して新たに留意すべきことを検討した。

検証の結果を踏まえ、全国的にも深刻な問題となっている人口減少社会に向けた行政サービスや公共施設のあり方等の検討資料とするため、新たに将来人口推計を行った。

1 人口の動向の整理

(1) 人口の動向

ア 芦屋市人口と年齢構成

(7) 芦屋市の人口動向（昭和50年（1975）～平成26年（2014））

本市の人口は昭和50年（1975）には76,211人であったが、その後微減傾向で推移し、昭和53年（1978）の芦屋浜への入居が開始した後の昭和54年（1979）、昭和55年（1980）は人口が急増し、その後も増加を続け昭和63年（1988）には88,623人となった。しかし、これをピークとして減少傾向に転じ、平成7年（1995）の阪神・淡路大震災の影響を受けたため、人口は75,032人に急減した。その後は、平成11年（1999）までは横ばい傾向で推移したが、震災復興整備に伴って徐々に人口は回復し、平成14年（2002）には87,790人に達し、震災前の水準に戻った。

その後も南芦屋浜地区への入居等もあり、人口の増加は続いたが、平成16年（2004）以降は住宅用地の供給不足や景気の低迷の影響もあり、増加は緩やかとなったものの、平成26年（2014）には94,642人となった。

図 芦屋市の人口動向

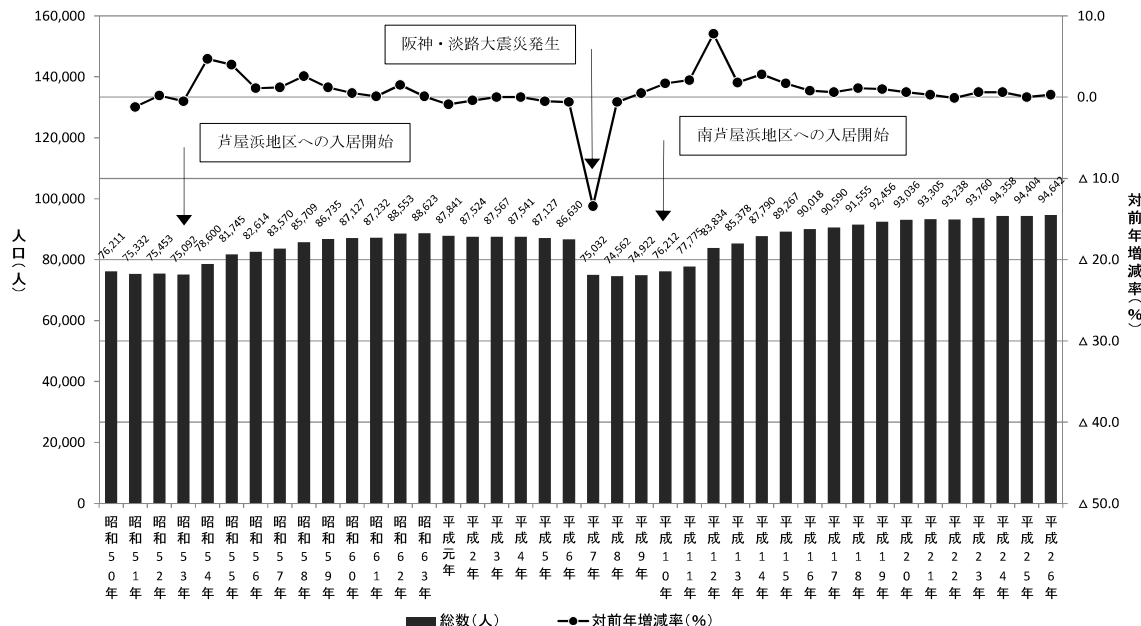


表 芦屋市の人口の推移

和暦	西暦(年)	世帯数(世帯)	総数(人)	男(人)	女(人)	対前年増減率(%)	平均世帯人員(人/世帯)	備考
昭和50年	1975	23,829	76,211	36,855	39,356			第12回国勢調査
昭和51年	1976	23,277	75,332	36,274	39,058	△ 1.2	3.2	推計人口(10.1)
昭和52年	1977	23,474	75,453	36,332	39,121	0.2	3.2	〃
昭和53年	1978	23,340	75,092	36,044	39,048	△ 0.5	3.2	〃
昭和54年	1979	24,607	78,600	37,665	40,935	4.7	3.2	〃
昭和55年	1980	28,614	81,745	38,996	42,749	4.0	2.9	第13回国勢調査
昭和56年	1981	29,020	82,614	39,274	43,340	1.1	2.8	推計人口(10.1)
昭和57年	1982	29,325	83,570	39,638	43,932	1.2	2.8	〃
昭和58年	1983	30,125	85,709	40,712	44,997	2.6	2.8	〃
昭和59年	1984	30,560	86,735	41,151	45,584	1.2	2.8	〃
昭和60年	1985	30,743	87,127	41,275	45,852	0.5	2.8	第14回国勢調査
昭和61年	1986	30,928	87,232	41,172	46,060	0.1	2.8	推計人口(10.1)
昭和62年	1987	31,622	88,553	41,642	46,911	1.5	2.8	〃
昭和63年	1988	31,929	88,623	41,615	47,008	0.1	2.8	〃
平成元年	1989	32,077	87,841	41,208	46,633	△ 0.9	2.7	〃
平成2年	1990	32,427	87,524	41,130	46,394	△ 0.4	2.7	第15回国勢調査
平成3年	1991	32,926	87,567	41,096	46,471	0.0	2.7	推計人口(10.1)
平成4年	1992	33,381	87,541	40,948	46,593	0.0	2.6	〃
平成5年	1993	33,643	87,127	40,707	46,420	△ 0.5	2.6	〃
平成6年	1994	33,695	86,630	40,401	46,229	△ 0.6	2.6	〃
平成7年	1995	29,070	75,032	34,928	40,104	△ 13.4	2.6	第16回国勢調査
平成8年	1996	29,128	74,562	34,687	39,875	△ 0.6	2.6	推計人口(10.1)
平成9年	1997	29,627	74,922	34,748	40,174	0.5	2.5	〃
平成10年	1998	30,808	76,212	35,295	40,917	1.7	2.5	〃
平成11年	1999	31,787	77,775	35,872	41,903	2.1	2.4	〃
平成12年	2000	34,209	83,834	38,705	45,129	7.8	2.5	第17回国勢調査
平成13年	2001	35,092	85,378	39,425	45,953	1.8	2.4	推計人口(10.1)
平成14年	2002	36,317	87,790	40,452	47,338	2.8	2.4	〃
平成15年	2003	37,340	89,267	41,119	48,148	1.7	2.4	〃
平成16年	2004	37,884	90,018	41,369	48,649	0.8	2.4	〃
平成17年	2005	37,970	90,590	41,391	49,199	0.6	2.4	第18回国勢調査
平成18年	2006	38,699	91,555	41,791	49,764	1.1	2.4	推計人口(10.1)
平成19年	2007	39,266	92,456	42,157	50,299	1.0	2.4	〃
平成20年	2008	39,810	93,036	42,330	50,706	0.6	2.3	〃
平成21年	2009	40,034	93,305	42,373	50,932	0.3	2.3	〃
平成22年	2010	39,753	93,238	42,385	50,853	△ 0.1	2.3	第19回国勢調査
平成23年	2011	40,219	93,760	42,657	51,103	0.6	2.3	推計人口(10.1)
平成24年	2012	40,252	94,358	42,813	51,545	0.6	2.3	〃
平成25年	2013	40,604	94,404	42,755	51,649	0.0	2.3	〃
平成26年	2014	40,912	94,642	42,749	51,893	0.3	2.3	〃

資料：芦屋市統計書（国勢調査，推計人口）

※推計人口は、国勢調査（平成22年10月1日実施）結果を基礎とし、毎月各市町から住民基本台帳法に基づく当該月間の移動数の報告を受け集計したものです。

※外国人登録人口は法律改正により、平成24年8月（月データ）から外国人は住民基本台帳人口に含まれる。

注：住民基本台帳人口（日本人+外国人（平成23年までは外国人登録人口による）10月1日現在）と国勢調査人口は、算出方法が異なるため、下記の差が生じている。

平成12年（2000）住民基本台帳人口+外国人登録人口=85,642人 国勢調査=83,834人 差 1,808人
 平成17年（2005）住民基本台帳人口+外国人登録人口=92,533人 国勢調査=90,590人 差 1,943人
 平成22年（2010）住民基本台帳人口+外国人登録人口=95,493人 国勢調査=93,238人 差 2,255人

また、平成26年（2014）の住民基本台帳人口と推計人口は、下記の差が生じている。

平成26年（2014）住民基本台帳人口（日本人+外国人）=96,897人 推計人口=94,642人 差 2,255人

(イ) 人口の変化とその要因

- 本市の人口減少の要因のうち、最も大きかったのは、平成7年の阪神・淡路大震災であり、多くの人命、住宅、インフラ等が失われた。住宅を失った人々は、市外に転居し住宅の再建を待ったが、その後の震災復興事業の着実な進展や平成10年（1998）の南芦屋浜地区の入居開始などによって、人口は急速に回復した。
- 平成11年（1999）から平成16年（2004）の人口増加は、経済の低迷による大手企業の遊休地や社宅等の売却等による住宅用地の供給が増加したことと、景気対策としての住宅融資制度の充実により取得しやすくなったためと考えられる。
- 平成17年（2005）以降は、市内においてまとまった規模の住宅開発用地の供給が難しくなり、住宅建設の進展が停滞したことなどが考えられる。
- 本市の良好な住宅環境の保全のための最低敷地規模、建築物の高度制限等の土地利用に関する規制が、人口増加を抑制している要因の一つとして考えられる。
- 南芦屋浜地区の住宅開発が経済状況等の影響により、当初の計画どおりに進んでいないため、現時点においては計画人口に達していない。

(ウ) 芦屋市の年齢構成（平成2年（1990）～平成26年（2014））

人口（国勢調査）の年齢構成をみると、平成2年（1990）の生産年齢人口割合（15歳～64歳）は70.4%でしたが、徐々に減少し、平成26年（2014）（住民基本台帳）では60.4%と約10ポイント減少しました。高齢人口割合（65歳～）は、平成2年（1990）の12.1%から、増加傾向で推移し、平成26年（2014）では26.3%と約14ポイント増加しています。一方、年少人口割合（0歳～14歳）は、平成2年（1990）の17.2%から減少傾向で推移し、平成17年（2005）からは上昇に転じましたが、平成26年（2014）では13.3%となっています。

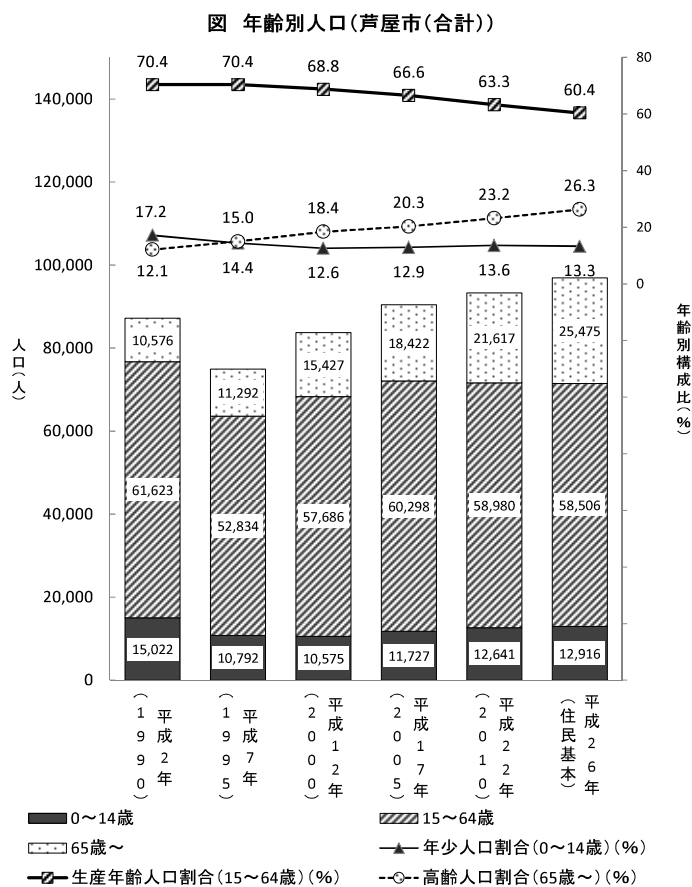


表 人口動向（芦屋市（合計））

		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成26年 (住民基本)
人口(人)	総人口	87,524	75,032	83,834	90,590	93,238	96,897
	0～14歳	15,022	10,792	10,575	11,727	12,641	12,916
	15～64歳	61,623	52,834	57,686	60,298	58,980	58,506
	65歳～	10,576	11,292	15,427	18,422	21,617	25,475
年少人口割合(0～14歳)(%)		17.2	14.4	12.6	12.9	13.6	13.3
生産年齢人口割合(15～64歳)(%)		70.4	70.4	68.8	66.6	63.3	60.4
高齢人口割合(65歳～)(%)		12.1	15.0	18.4	20.3	23.2	26.3

注：平成2年～平成22年人口は国勢調査による。平成26年（住民基本）人口は、住民基本台帳（10月1日現在 ※）の日本人と外国人の人口を集計した。

イ 小学校区別人口と年齢構成

(7) 山手小学校区

奥山, 奥池町, 奥池南町, 劔谷, 城山, 山手町, 山芦屋町, 東芦屋町, 西山町, 三条町, 大原町, 船戸町, 松ノ内町, 月若町, 西芦屋町, 三条南町, 上宮川町, 業平町, 前田町, 清水町

<人口動向>

近年の人口動向（住民基本台帳人口（日本人+外国人））をみると、平成17年（2005）の19,256人から横ばい傾向で推移し、平成26年（2014）では20,005人となっています。

<年齢構成>

人口（国勢調査）の年齢構成をみると、平成2年（1990）の生産年齢人口割合（15歳～64歳）は70.4%でしたが、徐々に減少し、平成26年（2014）（住民基本台帳）では60.3%と約10ポイント減少しました。高齢人口割合（65歳～）は、平成2年（1990）の16.8%から、増加傾向で推移し、平成26年（2014）では27.3%と約11ポイント増加しています。一方、年少人口割合（0歳～14歳）は、平成2年（1990）の12.4%から減少傾向にありましたが、平成17年（2005）からは上昇に転じ、平成26年（2014）では12.4%と復調しています。

図 実績人口(住民基本台帳)(山手)

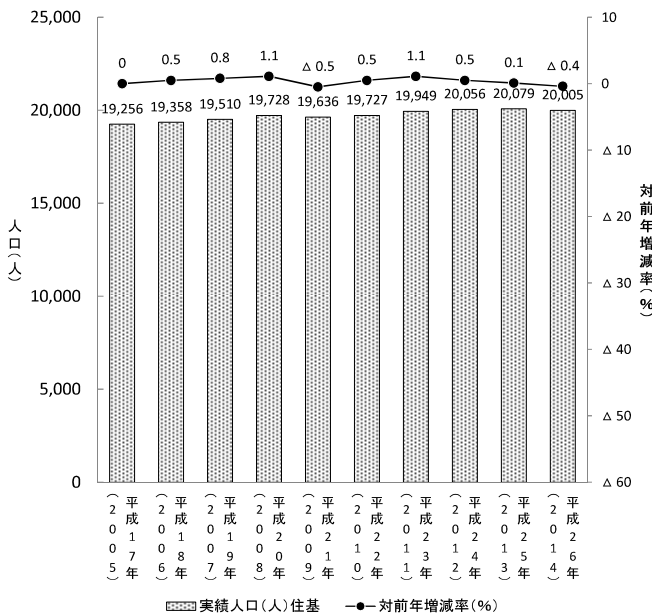
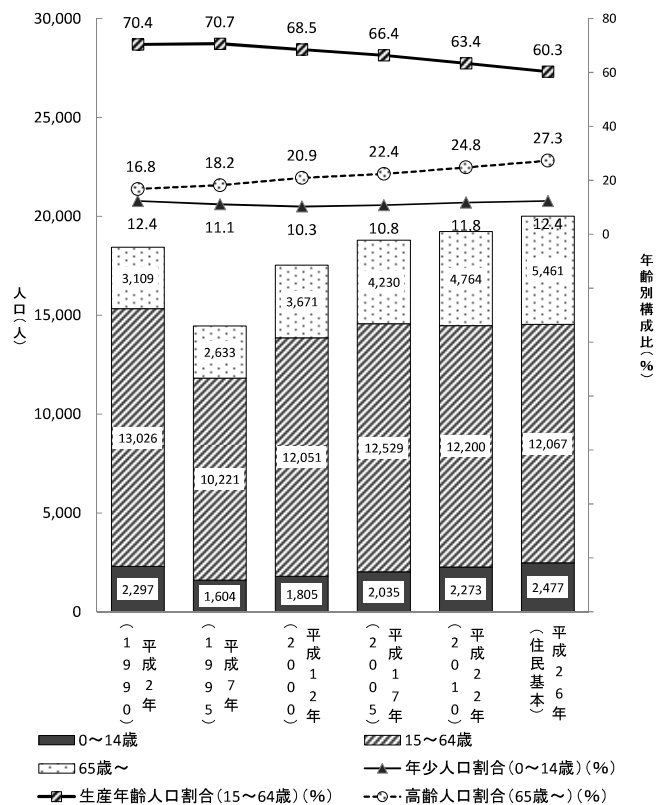


図 年齢別人口(国勢調査)(山手)



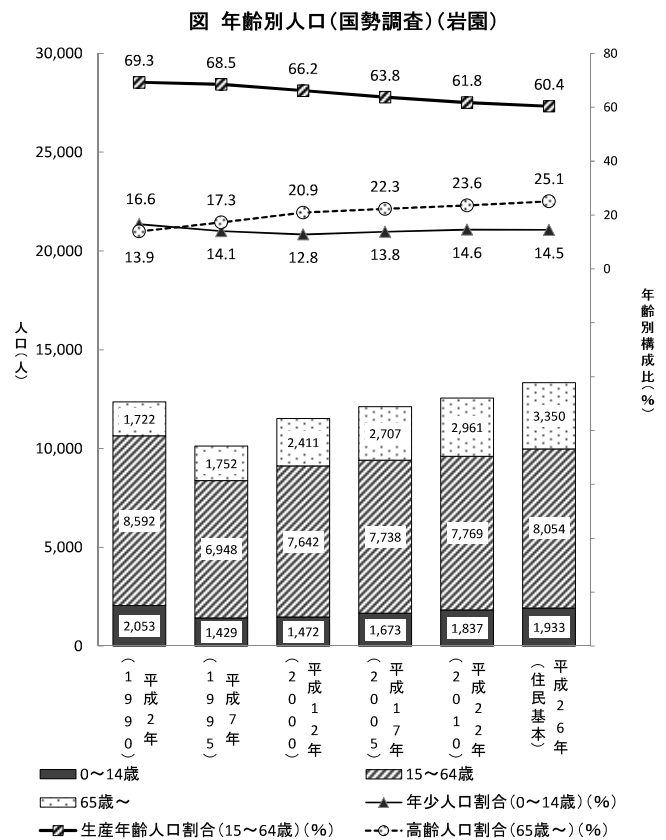
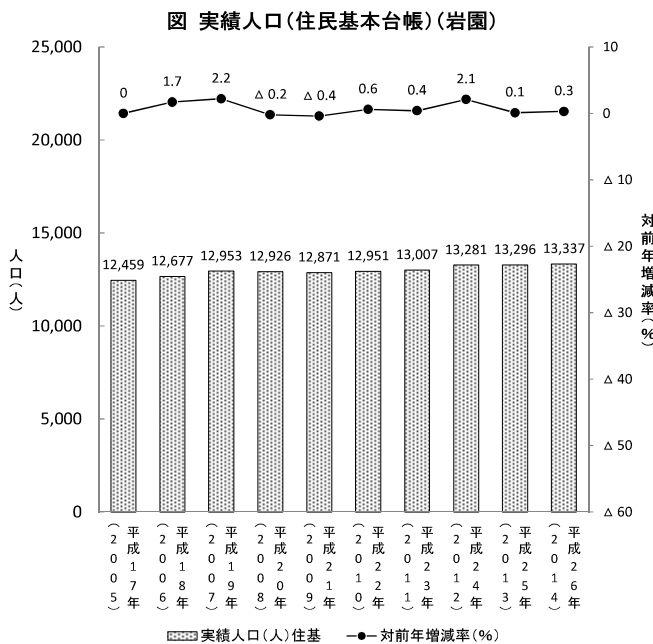
(イ) 岩園小学校区 六麓荘町, 岩園町, 翠ヶ丘町, 親王塚町, 楠町

<人口動向>

近年の人口動向をみると、平成17年(2005)の12,459人から微増傾向で推移し、平成26年(2014)では13,337人となっています。

<年齢構成>

人口(国勢調査)の年齢構成をみると、平成2年(1990)の生産年齢人口割合(15歳~64歳)は69.3%でしたが、徐々に減少し、平成26年(2014)(住民基本台帳)では60.4%と約9ポイント減少しました。高齢人口割合(65歳~)は、平成2年(1990)の13.9%から、増加傾向で推移し、平成26年(2014)では25.1%と約11ポイント増加しています。一方、年少人口割合(0歳~14歳)は、平成2年(1990)の16.6%からは減少傾向にありましたが、平成17年(2005)からは増加に転じ、平成26年(2014)では14.5%となっています。



(ウ) 朝日ヶ丘小学校区 朝日ヶ丘町, 東山町

<人口動向>

近年の人口動向をみると、平成17年(2005)の9,955人から微減傾向で推移し、平成26年(2014)では9,619人となっています。

<年齢構成>

人口(国勢調査)の年齢構成をみると、平成2年(1990)の生産年齢人口割合(15歳~64歳)は70.3%でしたが、徐々に減少し、平成26年(2014)(住民基本台帳)では61.6%と約9ポイント減少しました。高齢人口割合(65歳~)は、平成2年(1990)の11.3%から、増加傾向で推移し、平成26年(2014)では25.7%と約14ポイント増加しています。一方、年少人口割合(0歳~14歳)は、平成2年(1990)の18.1%からは減少傾向で推移し、平成17年(2005)で増加に転じたが、平成26年(2014)では12.7%となっています。

図 実績人口(住民基本台帳)(朝日ヶ丘)

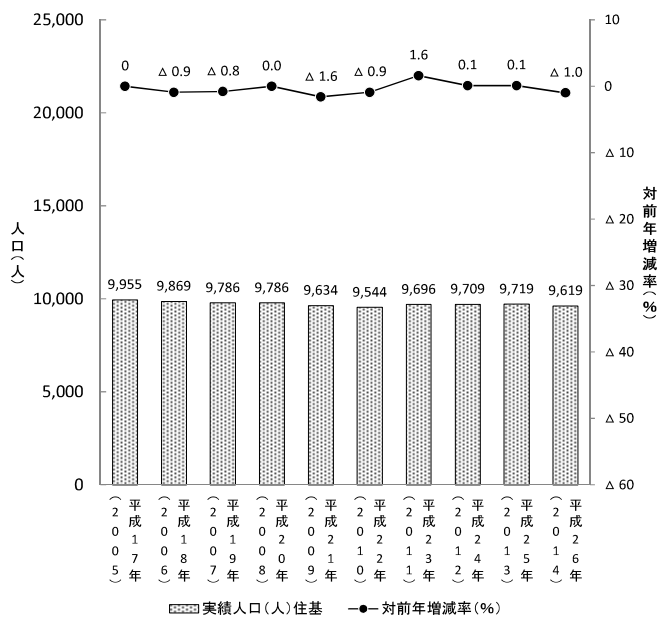
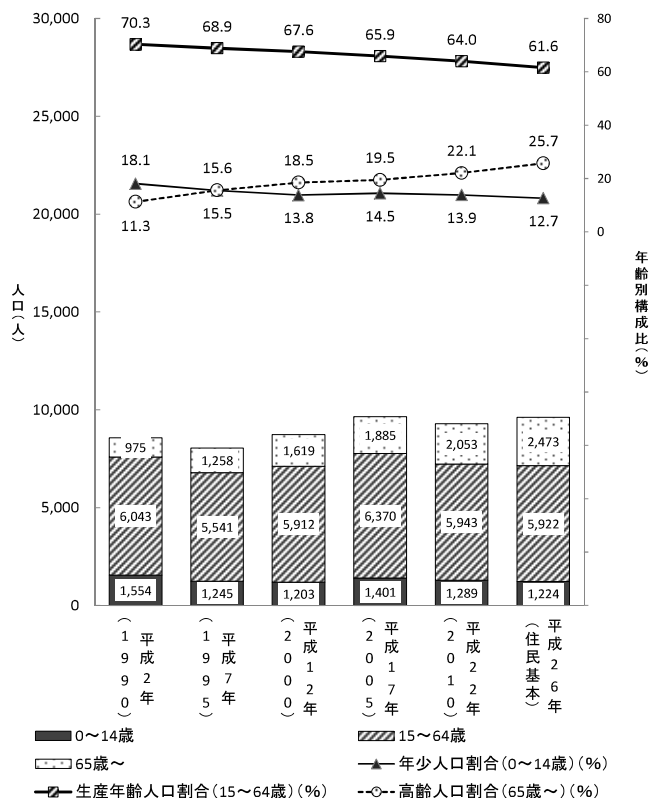


図 年齢別人口(国勢調査)(朝日ヶ丘)



(I) 精道小学校区

茶屋之町, 大柵町, 公光町, 川西町, 津知町, 竹園町, 精道町, 浜芦屋町, 平田北町, 伊勢町, 松浜町, 平田町

<人口動向>

近年の人口動向をみると, 平成 17 年 (2005) の 12,670 人から微減傾向で推移し, 平成 26 年 (2014) では 13,338 人となっています。

<年齢構成>

人口 (国勢調査) の年齢構成をみると, 平成 2 年 (1990) の生産年齢人口割合 (15 歳~64 歳) は 70.6%でしたが, 徐々に減少し, 平成 26 年 (2014) (住民基本台帳) では 62.8%と約 8 ポイント減少しました。高齢人口割合 (65 歳~) は, 平成 2 年 (1990) の 14.7%から, 増加傾向で推移し, 平成 26 年 (2014) では 23.8%と約 9 ポイント増加しています。一方, 年少人口割合 (0 歳~14 歳) は, 平成 2 年 (1990) の 14.2%からは減少傾向で推移し, 平成 17 年 (2005) で増加に転じたが, 平成 26 年 (2014) では 13.4%となっています。

図 実績人口(住民基本台帳)(精道)

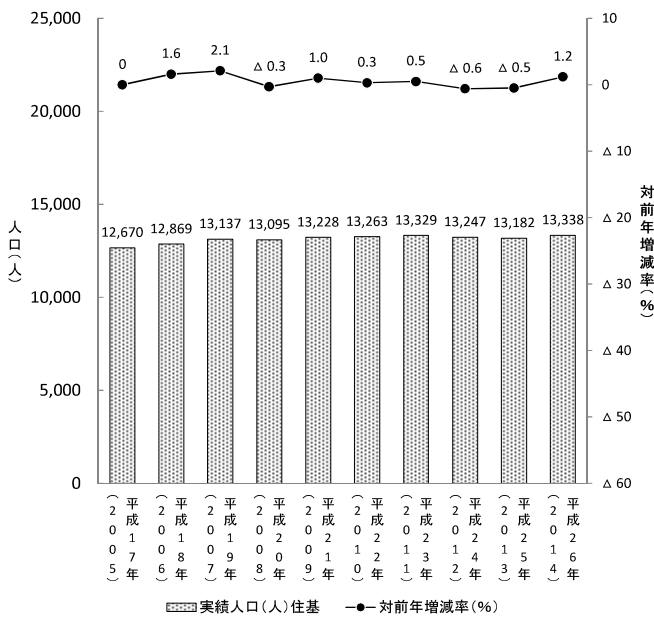
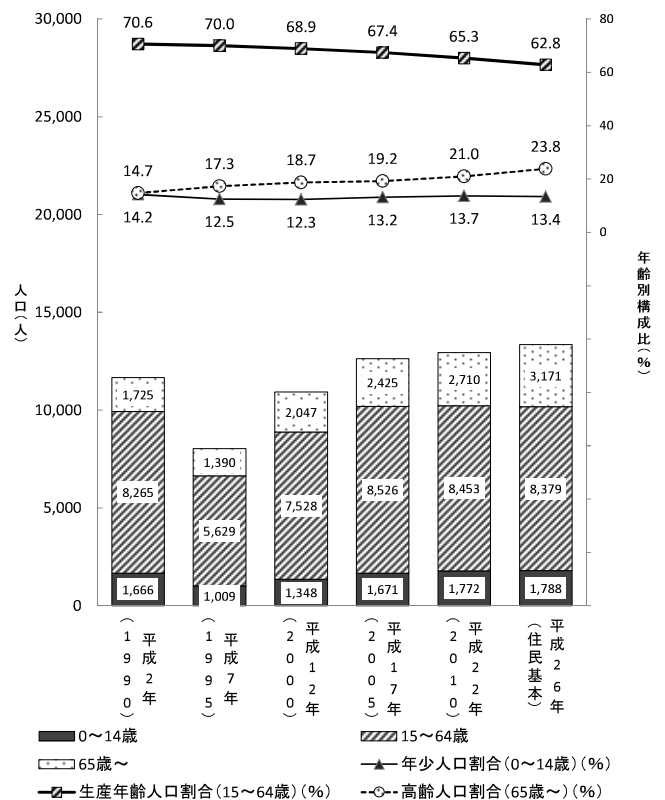


図 年齢別人口(国勢調査)(精道)



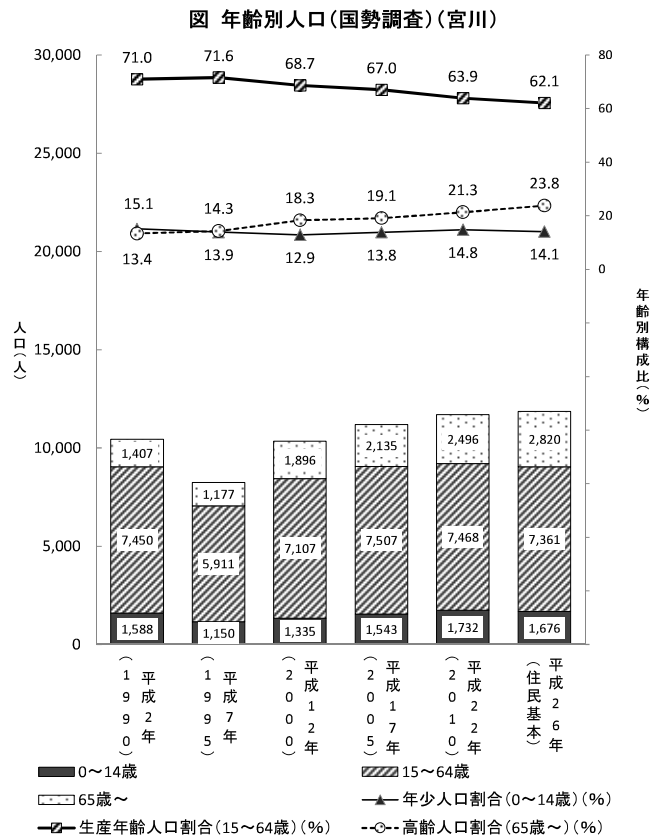
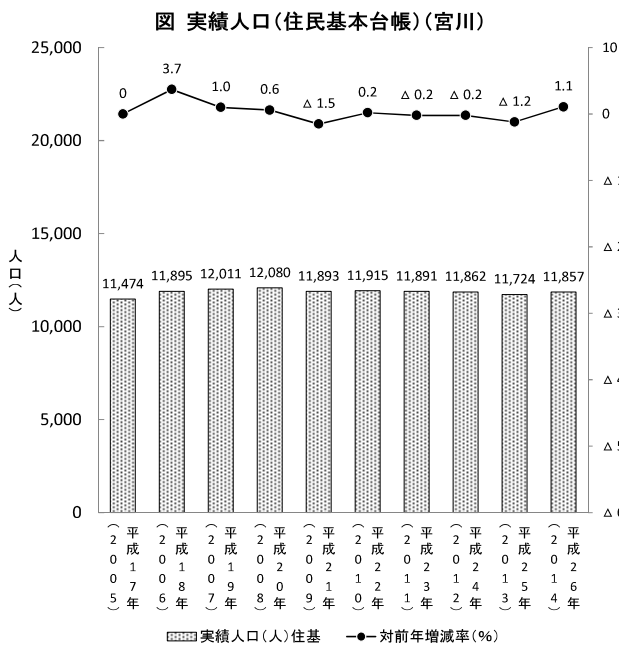
(オ) 宮川小学校区 打出小槌町, 宮塚町, 若宮町, 宮川町, 浜町, 西蔵町, 呉川町

<人口動向>

近年の人口動向をみると, 平成 17 年 (2005) の 11,474 人から微減傾向で推移し, 平成 26 年 (2014) では 11,857 人となっています。

<年齢構成>

人口 (国勢調査) の年齢構成をみると, 平成 2 年 (1990) の生産年齢人口割合 (15 歳~64 歳) は 71.0%でしたが, 徐々に減少し, 平成 26 年 (2014) (住民基本台帳) では 62.1%と約 9 ポイント減少しました。高齢人口割合 (65 歳~) は, 平成 2 年 (1990) の 13.4%から, 増加傾向で推移し, 平成 26 年 (2014) では 23.8%と約 10 ポイント増加しています。一方, 年少人口割合 (0 歳~14 歳) は, 平成 2 年 (1990) の 15.1%からは減少傾向で推移し, 平成 17 年 (2005) で増加に転じたが, 平成 26 年 (2014) では 14.1%となっています。



(カ) 打出浜小学校区

春日町, 打出町, 南宮町, 大東町

<人口動向>

近年の人口動向をみると、平成17年(2005)の9,977人から横ばい傾向で推移し、平成26年(2014)では10,183人となっています。

<年齢構成>

人口(国勢調査)の年齢構成をみると、平成2年(1990)の生産年齢人口割合(15歳~64歳)は70.4%でしたが、徐々に減少し、平成26年(2014)(住民基本台帳)では61.0%と約10ポイント減少しました。高齢人口割合(65歳~)は、平成2年(1990)の9.9%から、増加傾向で推移し、平成26年(2014)では24.4%で約15ポイントと大きく増加しています。一方、年少人口割合(0歳~14歳)は、平成2年(1990)の19.5%からは減少傾向で推移し、平成17年(2005)で増加に転じたが、平成26年(2014)では14.6%となっています。

図 実績人口(住民基本台帳)(打出浜)

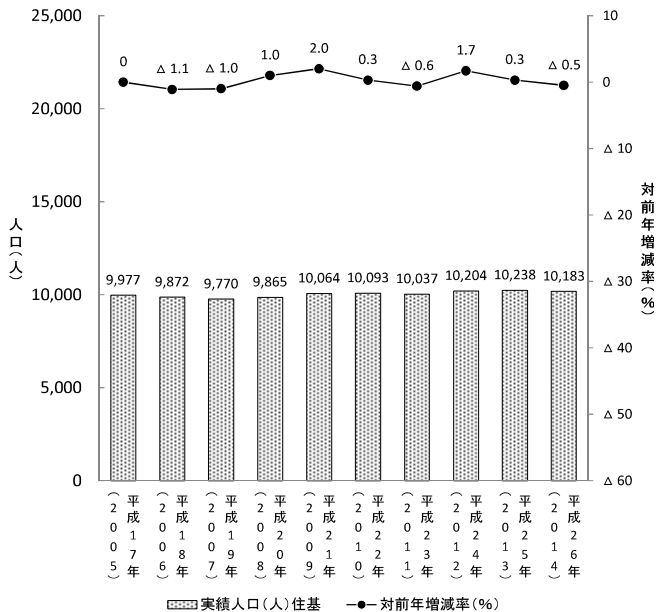
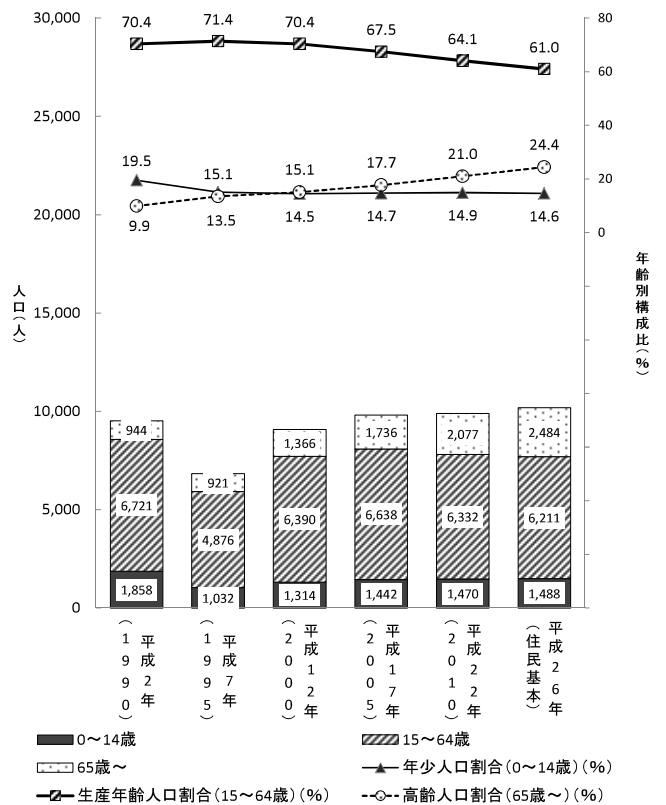


図 年齢別人口(国勢調査)(打出浜)



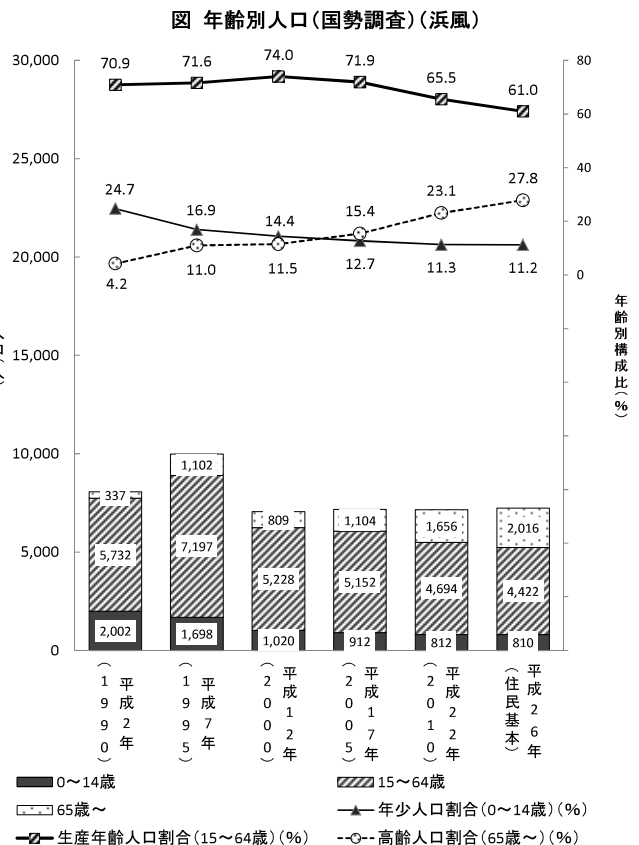
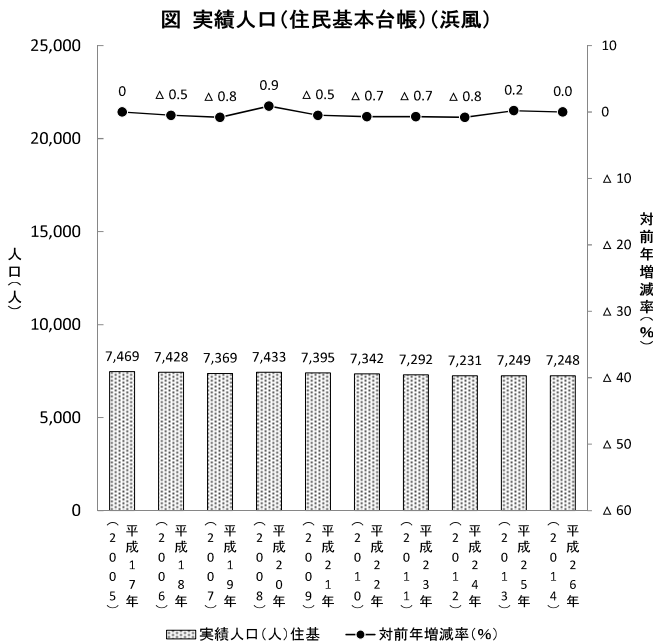
(キ) 浜風小学校区 新浜町, 浜風町, 高浜町

<人口動向>

近年の人口動向をみると、平成17年(2005)の7,469人から微減傾向で推移し、平成26年(2014)では7,248人となっています。

<年齢構成>

人口(国勢調査)の年齢構成をみると、平成2年(1990)の生産年齢人口割合(15歳~64歳)は70.9%で、徐々に増加しましたが、平成17年(2005)で減少に転じ、平成26年(2014)(住民基本台帳)では61.0%と約10ポイント減少しました。高齢人口割合(65歳~)は、平成2年(1990)の4.2%から増加傾向で推移し、平成26年(2014)では27.8%で約24ポイントと大きく増加しています。一方、年少人口割合(0歳~14歳)は、平成2年(1990)の24.7%から平成7年(1995)は7.8ポイント減少し、その後も減少傾向は変わらず、平成26年(2014)では11.2%となっています。



(ウ) 潮見小学校区（南芦屋浜地区を除く）

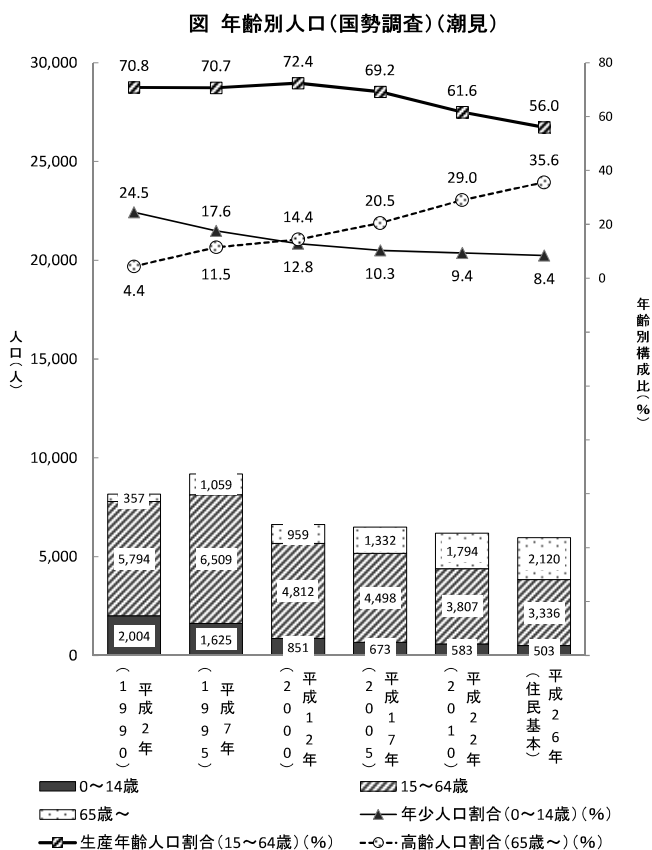
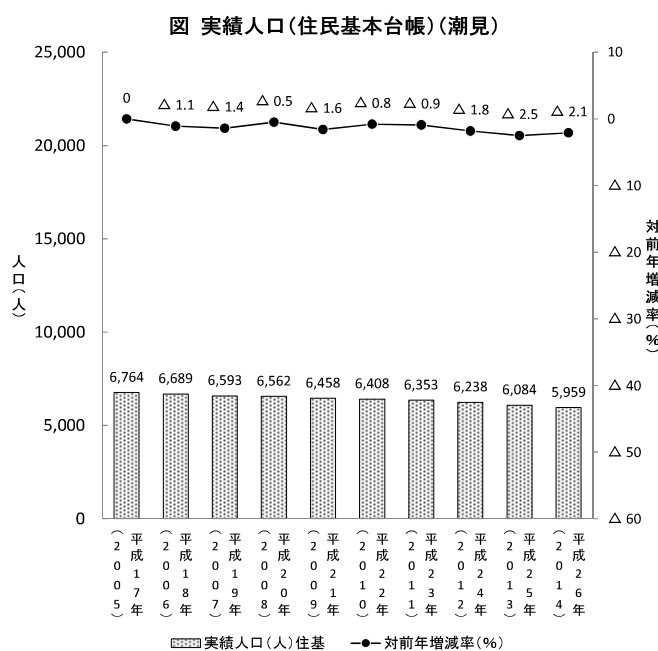
若葉町，緑町，潮見町

<人口動向>

近年の人口動向をみると，平成17年（2005）の6,764人から減少傾向で推移し，平成26年（2014）では5,959人となっています。

<年齢構成>

人口（国勢調査）の年齢構成をみると，平成2年（1990）の生産年齢人口割合（15歳～64歳）は70.8%で，平成17年（2005）で増加したものの，平成26年（2014）（住民基本台帳）では56.0%と約15ポイント減少しました。高齢人口割合（65歳～）は，平成2年（1990）の4.4%から増加傾向で推移し，平成26年（2014）では35.6%で約31.2ポイントと大きく増加しています。一方，年少人口割合（0歳～14歳）は，平成2年（1990）の24.5%から平成7年（1995）は6.9ポイント減少し，その後も減少傾向は変わらず，平成26年（2014）では8.4%となっています。



(ハ) 南芦屋浜地区

陽光町, 海洋町, 涼風町, 南浜町

<人口動向>

近年の人口動向をみると、平成17年(2005)の2,509人から増加傾向で推移し、平成26年(2014)では5,351人となっています。

<年齢構成>

人口(国勢調査)の年齢構成をみると、平成12年の生産年齢人口割合(15歳~64歳)は53.6%で、平成26年(2014)(住民基本台帳)では51.5%と約2ポイント減少しました。高齢人口割合(65歳~)は、平成12年の34.2%から減少傾向で推移し、平成26年(2014)では29.5%で約5ポイントと減少しています。一方、年少人口割合(0歳~14歳)は、平成12年の12.0%からの増加傾向は変わらず、平成26年(2014)では19.0%となっています。

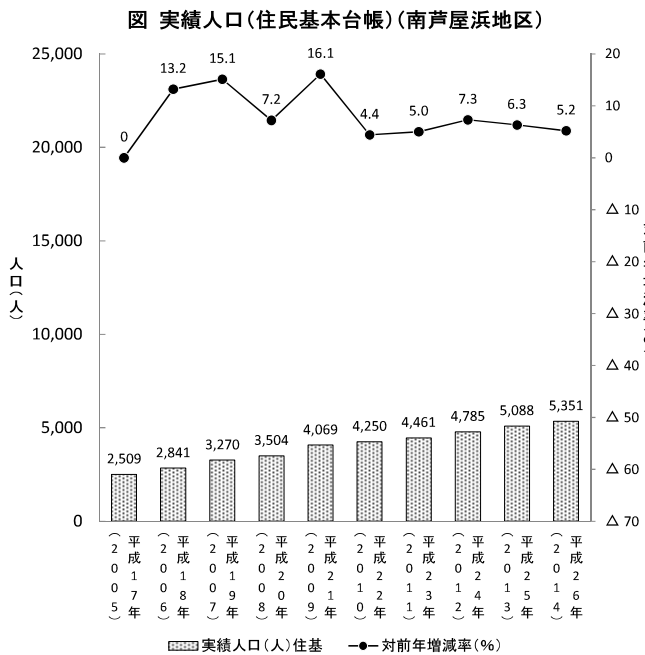
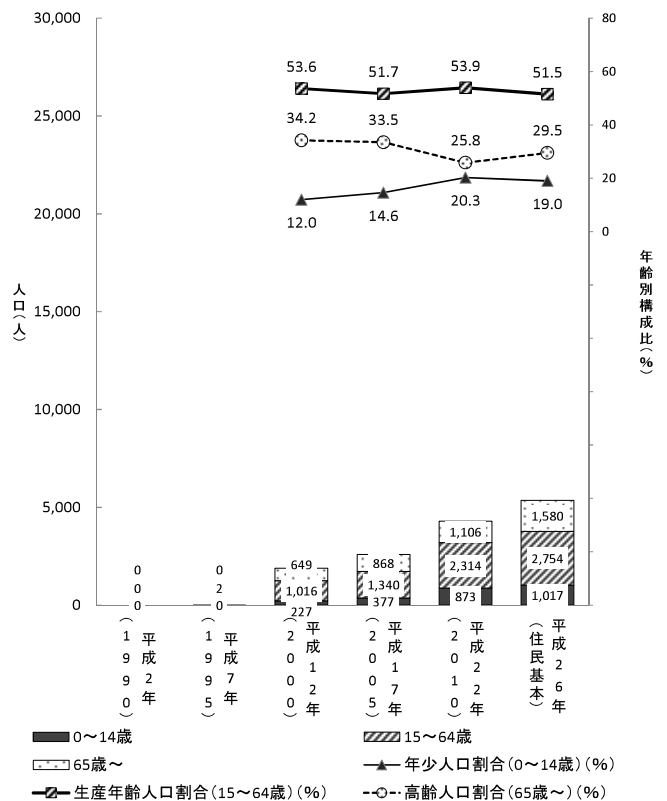


図 年齢別人口(国勢調査)(南芦屋浜地区)



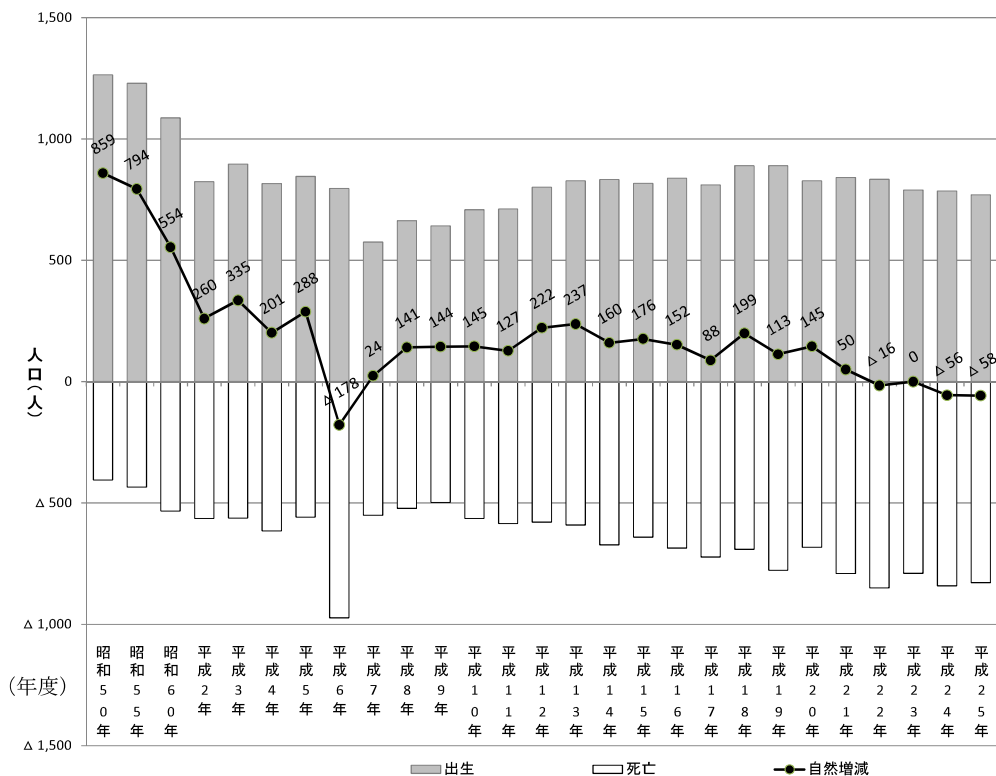
(2) 自然増減と社会増減の動向

自然増減の状況をみると、昭和50年度(1975)は859人増でしたが、その後平成2年度(1990)からは増加の水準は260人~335人と大きく低下し、平成6、7年度(1994、1995)は阪神・淡路大震災の影響もあり、さらに低下して平成6年度(1994)には178人減と初めて自然減となった。平成8年度(1996)には141人増の水準に回復し、平成9年度以降は127人~237人増の水準で推移した。しかし、平成21年度(2009)は50人増の水準に低下し、さらには、平成22年度(2010)は16人減と自然減に転じ、平成24年度(2012)は56人減、平成25年度(2013)は58人減と自然減で推移している。

社会増減の状況をみると、昭和50年度(1975)は571人減、昭和55年度では一時的に1,393人増となったが、昭和60年度には199人減、その後も平成5年度まで社会減で推移し、平成6年度(1994)は阪神・淡路大震災の影響もあり4,238人減、平成7年度(1995)は2,139人減と社会減の水準が大きかった。

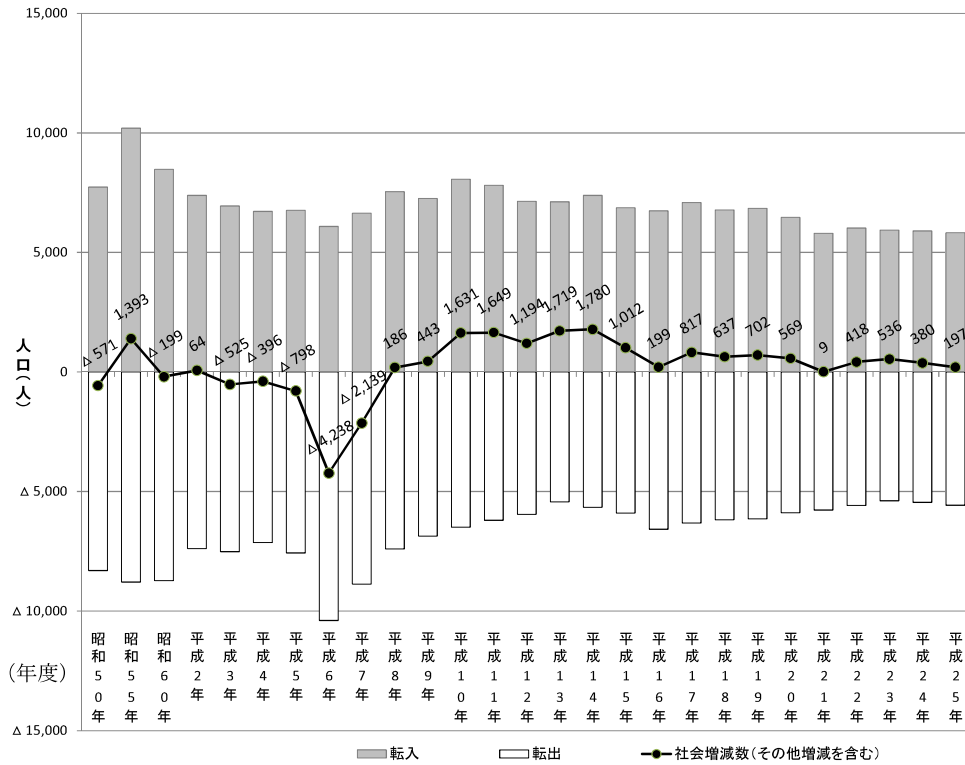
平成8年度(1996)からは社会増に転じて、平成10年度(1998)には1,631人増、その後も同様の水準で推移してきたものの、平成16年度以降の社会増は9~817人増の低い水準となっている。

図 自然増減の推移



資料：芦屋市統計書

図 社会増減の推移



資料：芦屋市統計書

表 人口動態の推移

和暦(年度)	西暦(年度)	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減数(その他増減を含む)	人口増減数	備考
昭和40年	1965	1,020	△ 319	701	8,178	△ 8,077	101	802	芦屋市統計書より
昭和45年	1970	1,188	△ 374	814	10,074	△ 9,229	845	1,659	芦屋市統計書より
昭和50年	1975	1,264	△ 405	859	7,730	△ 8,301	△ 571	288	芦屋市統計書より
昭和55年	1980	1,229	△ 435	794	10,195	△ 8,791	1,393	2,187	芦屋市統計書より
昭和60年	1985	1,087	△ 533	554	8,474	△ 8,730	△ 199	355	芦屋市統計書より
平成2年	1990	824	△ 564	260	7,380	△ 7,388	64	324	芦屋市統計書より
平成3年	1991	897	△ 562	335	6,944	△ 7,515	△ 525	△ 190	芦屋市統計書より
平成4年	1992	816	△ 615	201	6,714	△ 7,138	△ 396	△ 195	芦屋市統計書より
平成5年	1993	846	△ 558	288	6,762	△ 7,568	△ 798	△ 510	芦屋市統計書より
平成6年	1994	796	△ 974	△ 178	6,085	△ 10,394	△ 4,238	△ 4,416	芦屋市統計書より
平成7年	1995	575	△ 551	24	6,639	△ 8,872	△ 2,139	△ 2,115	芦屋市統計書より
平成8年	1996	663	△ 522	141	7,542	△ 7,405	186	327	芦屋市統計書より
平成9年	1997	642	△ 498	144	7,251	△ 6,865	443	587	芦屋市統計書より
平成10年	1998	709	△ 564	145	8,068	△ 6,491	1,631	1,776	芦屋市統計書より
平成11年	1999	712	△ 585	127	7,808	△ 6,204	1,649	1,776	芦屋市統計書より
平成12年	2000	801	△ 579	222	7,142	△ 5,958	1,194	1,416	芦屋市統計書より
平成13年	2001	828	△ 591	237	7,114	△ 5,431	1,719	1,956	芦屋市統計書より
平成14年	2002	833	△ 673	160	7,384	△ 5,657	1,780	1,940	芦屋市統計書より
平成15年	2003	817	△ 641	176	6,870	△ 5,903	1,012	1,188	芦屋市統計書より
平成16年	2004	838	△ 686	152	6,740	△ 6,577	199	351	芦屋市統計書より
平成17年	2005	811	△ 723	88	7,090	△ 6,315	817	905	芦屋市統計書より
平成18年	2006	890	△ 691	199	6,780	△ 6,180	637	836	芦屋市統計書より
平成19年	2007	890	△ 777	113	6,846	△ 6,141	702	815	芦屋市統計書より
平成20年	2008	828	△ 683	145	6,469	△ 5,884	569	714	芦屋市統計書より
平成21年	2009	841	△ 791	50	5,799	△ 5,775	9	59	芦屋市統計書より
平成22年	2010	834	△ 850	△ 16	6,016	△ 5,584	418	402	芦屋市統計書より
平成23年	2011	790	△ 790	0	5,938	△ 5,387	536	536	芦屋市統計書より
平成24年	2012	786	△ 842	△ 56	5,899	△ 5,454	380	324	芦屋市統計書より
平成25年	2013	770	△ 828	△ 58	5,819	△ 5,579	197	139	芦屋市統計書より

資料：芦屋市統計書

2 既存人口推計と実績人口の比較・検討

(1) 総人口，年齢別人口の比較・検討

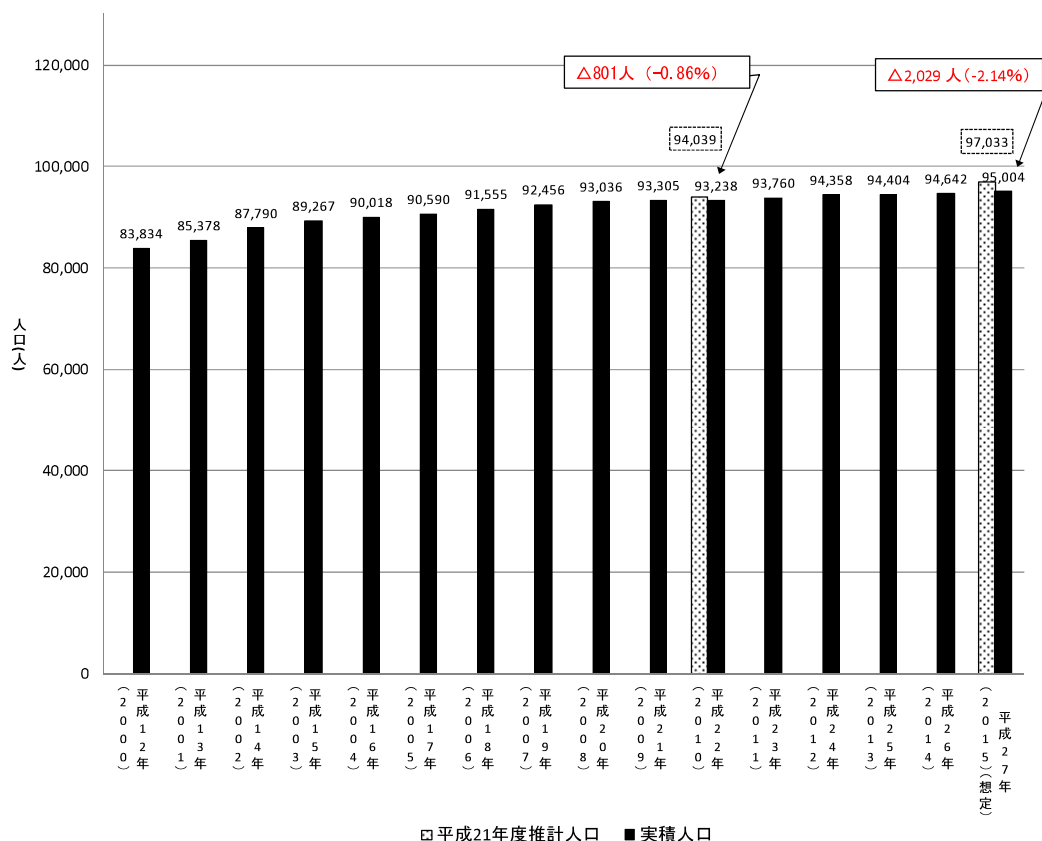
ア 芦屋市

(7) 総人口

「平成 21 年度推計人口」(平成 22 年 (2010) 3 月推計) では，平成 22 年 (2010) 推計人口は 94,039 人，平成 27 年 (2015) 推計人口は 97,033 人と推計されている。実績人口と比較すると，平成 22 年 (2010) 実績人口は 93,238 人 (国勢調査) で，801 人少なく，率では 0.85% 少なかった。また，平成 27 年 (2015) の実績人口 (想定) 95,004 人で，2,029 人少なく，率では 2.1% 少なかった。実績人口は推計人口に比べて増加は少なく，推計人口の乖離は平成 22 年 (2010) に比べて平成 27 年 (2015) はさらに拡大している。原因としては南芦屋浜地区への入居が当時の見込みより遅れたことが考えられる。

平成 27 年の乖離率は 2% 程度であり，現時点では概ね許容範囲にあると思われる。

図 平成21年度人口推計と実績の比較



※乖離率 (%) = (実績人口 - 平成 21 年度推計人口) ÷ 平成 21 年度推計人口 × 100

※平成 27 年実績人口 (想定) は，平成 22 年実績人口に平成 22~26 年 (4 年間) 住民基本台帳人口の 1 年当たりの増加率の 5 カ年分を乗じて算出

(イ) 年齢別人口

平成 22 年 (2010) の年少人口割合 (0~14 歳) は、推計では 13.6%でしたが、実績 (国勢調査) も 13.6%で、同率となっています。生産年齢人口割合 (15~64 歳) は、推計では 63.5%でしたが、実績は 63.3%で 0.2 ポイント減となっています。一方、高齢人口割合 (65 歳~) は、推計では 22.9%でしたが、実績は 23.2%で 0.3 ポイント増となっています。

市全体の年齢別人口推計と実績の乖離状況をみると、最大の乖離率が 1.3%であり、検証結果としては概ね良好であると判断できます。

表 推計人口と実績人口の乖離 (芦屋市(合計))

		平成22年 (推計)	平成22年 (実績)	乖離	乖離率 (%)
人口(人)	総人口	94,039	93,238	△ 801	△ 0.9
	0~14歳	12,784	12,641	△ 143	△ 1.1
	15~64歳	59,694	58,980	△ 714	△ 1.2
	65歳~	21,561	21,617	56	0.3
年少人口割合(0~14歳)(%)		13.6	13.6	0.0	0.0
生産年齢人口割合(15~64歳)(%)		63.5	63.3	△ 0.2	△ 0.3
高齢人口割合(65歳~)(%)		22.9	23.2	0.3	1.3

資料：実績は国勢調査

イ 小学校区別人口

(7) 総人口

表 小学校区別将来人口(「平成21年度推計」結果と実績値の比較)

小学校区	1. 山手	2. 岩園	3. 朝日ヶ丘
推計人口と 実人口の乖 離状況	平成22年(2010)の推計人口は19,678人でしたが、実績人口は19,237人で441人減となり、乖離率は-2.2%でした。平成27年(2015)の推計人口は20,150人でしたが、実績人口(想定)は19,576人で574人減となり、乖離率は-2.8%でした。	平成22年(2010)の推計人口は12,865人でしたが、実績人口は12,567人で298人減となり、乖離率は-2.3%でした。平成27年(2015)の推計人口は13,451人でしたが、実績人口(想定)は13,036人で415人減となり、乖離率は-3.1%でした。	平成22年(2010)の推計人口は9,265人でしたが、実績人口は9,285人で20人増となり、乖離率は0.2%でした。平成27年(2015)の推計人口は8,935人でしたが、実績人口(想定)は9,376人で441人増となり、乖離率は4.9%でした。
平22年(2010) 推計人口(人)	19,678	12,865	9,265
平22年(2010) 実績人口(人)	19,237	12,567	9,285
平27年(2015) 推計人口(人)	20,150	13,451	8,935
平27年(2015) 想定人口(人)	19,576	13,036	9,376
平22年(2010) 乖離量、(率)	△441(△2.2%)	△298(△2.3%)	20(0.2%)
平27年(2015) 乖離量、(率)	△574(△2.8%)	△415(△3.1%)	441(4.9%)
小学校区	4. 精道	5. 宮川	6. 打出浜
推計人口と 実人口の乖 離状況	平成22年(2010)の推計人口は13,140人でしたが、実績人口は12,935人で205人減となり、乖離率は△1.6%でした。平成27年(2015)の推計人口は13,472人でしたが、実績人口(想定)は13,026人で446人減となり、乖離率は△3.3%でした。	平成22年(2010)の推計人口は11,592人でしたが、実績人口は11,696人で104人増となり、乖離率は0.9%でした。平成27年(2015)の推計人口は11,870人でしたが、実績人口(想定)は11,627人で243人減となり、乖離率は△2.0%でした。	平成22年(2010)の推計人口は9,644人でしたが、実績人口は9,879人で235人増となり、乖離率は2.4%でした。平成27年(2015)の推計人口は9,331人でしたが、実績人口(想定)は9,989人で658人増となり、乖離率は7.1%でした。
平22年(2010) 推計人口(人)	13,140	11,592	9,644
平22年(2010) 実績人口(人)	12,935	11,696	9,879
平27年(2015) 推計人口(人)	13,472	11,870	9,331
平27年(2015) 想定人口(人)	13,026	11,627	9,989
平22年(2010) 乖離量、(率)	△205(△1.6%)	104(0.9%)	235(2.4%)
平27年(2015) 乖離量、(率)	△446(△3.3%)	△243(△2.0%)	658(7.1%)
小学校区	7. 浜風	8. 潮見(南芦屋浜地区を除く)	9. 南芦屋浜地区
推計人口と 実人口の乖 離状況	平成22年(2010)の推計人口は7,022人でしたが、実績人口は7,162人で140人増となり、乖離率は2.0%でした。平成27年(2015)の推計人口は6,837人でしたが、実績人口(想定)は7,048人で211人増となり、乖離率は3.1%でした。	平成22年(2010)の推計人口は6,033人でしたが、実績人口は6,184人で151人増となり、乖離率は2.5%でした。平成27年(2015)の推計人口は5,587人でしたが、実績人口(想定)は5,642人で55人増となり、乖離率は1.0%でした。	平成22年(2010)の推計人口は4,800人でしたが、実績人口は4,293人で507人減となり、乖離率は△10.6%でした。平成27年(2015)の推計人口は7,400人でしたが、実績人口(想定)は5,684人で1,716人減となり、乖離率は△23.2%でした。
平22年(2010) 推計人口(人)	7,022	6,033	4,800
平22年(2010) 実績人口(人)	7,162	6,184	4,293
平27年(2015) 推計人口(人)	6,837	5,587	7,400
平27年(2015) 想定人口(人)	7,048	5,642	5,684
平22年(2010) 乖離量、(率)	140(2.0%)	151(2.5%)	△507(△10.6%)
平27年(2015) 乖離量、(率)	211(3.1%)	55(1.0%)	△1716(△23.2%)

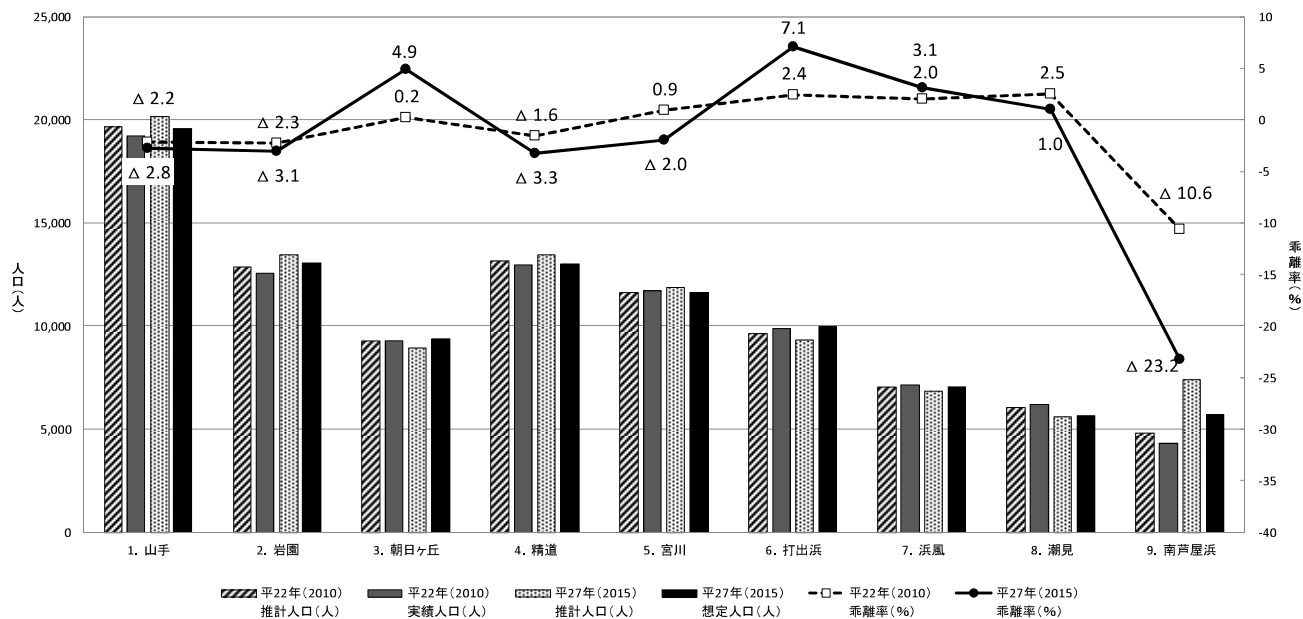
<まとめ>

平成22年(2010)の推計人口と実績人口(国勢調査)の乖離率は、南芦屋浜地区を除けば、概ね-2.3~+2.5%の範囲に収まっており、推計の誤差内にあると言えます。但し、南芦屋浜地区は-10.6%と乖離率は高くなっています。これは推計の前提条件とした地区内での住宅計画がスケジュール通りに進展しなかったことが、主な原因と考えられます。

また、平成27年(2015)の推計人口と実績人口(想定)の乖離率をみると、南芦屋浜地区を除いて、-3.3~+7.1%と差が拡大しています。朝日ヶ丘小学校区は乖離率4.9%、打出浜小学校区は乖離率7.1%と、他の小学校区に比較して高くなっています。これは当該小学校区内で、前提条件としていない住宅開発が活発に行われた結果と思われます。

南芦屋浜地区、朝日ヶ丘小学校区、打出浜小学校区以外の小学校区の推計人口は、実績人口と比較して、概ね妥当であったと結論できます。

図 小学校区別人口推計結果と実績人口の乖離



※平成27年実績人口(想定)は、平成22年実績人口に平成22~26年(4年間)住民基本台帳人口の1年当たりの増加率の5ヵ年分を乗じて算出

(イ) 年齢別人口

<1. 山手小学校区>

平成22年(2010)の年少人口割合(0~14歳)は、推計では12.2%でしたが、実績(国勢調査)は11.8%で、0.4ポイント減、乖離率は-3.3%となっています。生産年齢人口割合(15~64歳)は、推計では63.8%でしたが、実績は63.4%で0.4ポイント減、乖離率は-0.6%となっています。一方、高齢人口割合(65歳~)は、推計では24.0%でしたが、実績は24.8%で0.8ポイント増、乖離率は3.3%となっています。

表 推計人口と実績人口の乖離(1. 山手小学校区)

		平成22年 (推計)	平成22年 (実績)	乖離	乖離率 (%)
人口(人)	総人口	19,678	19,237	△ 441	△ 2.2
	0~14歳	2,403	2,273	△ 130	△ 5.4
	15~64歳	12,558	12,200	△ 358	△ 2.9
	65歳~	4,717	4,764	47	1.0
年少人口割合(0~14歳)(%)		12.2	11.8	△ 0.4	△ 3.3
生産年齢人口割合(15~64歳)(%)		63.8	63.4	△ 0.4	△ 0.6
高齢化率(65歳~)(%)		24.0	24.8	0.8	3.3

<2. 岩園小学校区>

平成22年(2010)の年少人口割合(0歳~14歳)は、推計では14.7%でしたが、実績は14.6%で、0.1ポイント減、乖離率は-0.7%となっています。生産年齢人口割合(15歳~64歳)は、推計では62.0%でしたが、実績は61.8%で0.2ポイント減、乖離率は-0.3%となっています。一方、高齢人口割合(65歳~)は、推計では23.4%でしたが、実績は23.6%で0.2ポイント増、乖離率は0.9%となっています。

表 推計人口と実績人口の乖離(2. 岩園小学校区)

		平成22年 (推計)	平成22年 (実績)	乖離	乖離率 (%)
人口(人)	総人口	12,865	12,567	△ 298	△ 2.3
	0~14歳	1,885	1,837	△ 48	△ 2.5
	15~64歳	7,972	7,769	△ 203	△ 2.5
	65歳~	3,008	2,961	△ 47	△ 1.6
年少人口割合(0~14歳)(%)		14.7	14.6	△ 0.1	△ 0.7
生産年齢人口割合(15~64歳)(%)		62.0	61.8	△ 0.2	△ 0.3
高齢化率(65歳~)(%)		23.4	23.6	0.2	0.9

<3. 朝日ヶ丘小学校区>

平成22年(2010)の年少人口割合(0歳~14歳)は、推計では14.3%でしたが、実績は13.9%で、0.4ポイント減、乖離率は-0.4%となっています。生産年齢人口割合(15歳~64歳)は、推計では62.4%でしたが、実績は64.0%で1.6ポイント増、乖離率は1.6%となっています。一方、高齢人口割合(65歳~)は、推計では23.3%でしたが、実績は22.1%で1.2ポイント減、乖離率は-5.2%となっています。

表 推計人口と実績人口の乖離 (3. 朝日ヶ丘小学校区)

		平成22年 (推計)	平成22年 (実績)	乖離	乖離率 (%)
人口(人)	総人口	9,265	9,285	20	0.2
	0~14歳	1,327	1,289	△ 38	△ 2.9
	15~64歳	5,781	5,943	162	2.8
	65歳~	2,157	2,053	△ 104	△ 4.8
年少人口割合(0~14歳)(%)		14.3	13.9	△ 0.4	△ 2.8
生産年齢人口割合(15~64歳)(%)		62.4	64.0	1.6	2.6
高齢化率(65歳~)(%)		23.3	22.1	△ 1.2	△ 5.2

<4. 精道小学校区>

平成22年(2010)の年少人口割合(0歳~14歳)は、推計では14.0%でしたが、実績は13.7%で、0.3ポイント減、乖離率は-2.1%となっています。生産年齢人口割合(15歳~64歳)は、推計では65.4%でしたが、実績は65.3%で0.1ポイント増、乖離率は0.2%となっています。一方、高齢人口割合(65歳~)は、推計では20.7%でしたが、実績は21.0%で0.3ポイント増、乖離率は1.4%となっています。

表 推計人口と実績人口の乖離 (4. 精道小学校区)

		平成22年 (推計)	平成22年 (実績)	乖離	乖離率 (%)
人口(人)	総人口	13,140	12,935	△ 205	△ 1.6
	0~14歳	1,845	1,772	△ 73	△ 4.0
	15~64歳	8,572	8,453	△ 119	△ 1.4
	65歳~	2,723	2,710	△ 13	△ 0.5
年少人口割合(0~14歳)(%)		14.0	13.7	△ 0.3	△ 2.1
生産年齢人口割合(15~64歳)(%)		65.2	65.3	0.1	0.2
高齢人口割合(65歳~)(%)		20.7	21.0	0.3	1.4

<5. 宮川小学校区>

平成22年(2010)の年少人口割合(0歳~14歳)は、推計では14.6%でしたが、実績は14.8%で、0.2ポイント増、乖離率は1.4%となっています。生産年齢人口割合(15歳~64歳)は、推計では64.2%でしたが、実績は63.9%で0.3ポイント減、乖離率は-0.5%となっています。一方、高齢人口割合(65歳~)は、推計では21.2%でしたが、実績は21.3%で0.1ポイント増、乖離率は0.5%となっています。

表 推計人口と実績人口の乖離 (5. 宮川小学校区)

		平成22年 (推計)	平成22年 (実績)	乖離	乖離率 (%)
人口(人)	総人口	11,592	11,696	104	0.9
	0~14歳	1,690	1,732	42	2.5
	15~64歳	7,439	7,468	29	0.4
	65歳~	2,463	2,496	33	1.3
年少人口割合(0~14歳)(%)		14.6	14.8	0.2	1.4
生産年齢人口割合(15~64歳)(%)		64.2	63.9	△ 0.3	△ 0.5
高齢人口割合(65歳~)(%)		21.2	21.3	0.1	0.5

<6. 打出浜小学校区>

平成22年(2010)の年少人口割合(0歳~14歳)は、推計では14.2%でしたが、実績は14.9%で、0.7ポイント増、乖離率は4.9%となっています。生産年齢人口割合(15歳~64歳)は、推計では64.6%でしたが、実績は64.1%で0.5ポイント減、乖離率は-0.8%となっています。一方、高齢人口割合(65歳~)は、推計では21.1%でしたが、実績は21.0%で0.1ポイント減、乖離率は-0.5%となっています。

表 推計人口と実績人口の乖離 (6. 打出浜小学校区)

		平成22年 (推計)	平成22年 (実績)	乖離	乖離率 (%)
人口(人)	総人口	9,644	9,879	235	2.4
	0~14歳	1,374	1,470	96	7.0
	15~64歳	6,231	6,332	101	1.6
	65歳~	2,039	2,077	38	1.9
年少人口割合(0~14歳)(%)		14.2	14.9	0.7	4.9
生産年齢人口割合(15~64歳)(%)		64.6	64.1	△ 0.5	△ 0.8
高齢人口割合(65歳~)(%)		21.1	21.0	△ 0.1	△ 0.5

< 7. 浜風小学校区 >

平成 22 年 (2010) の年少人口割合 (0 歳～14 歳) は、推計では 11.2%でしたが、実績は 11.3%で、0.1 ポイント増、乖離率は 0.9%となっています。生産年齢人口割合 (15 歳～64 歳) は、推計では 66.7%でしたが、実績は 65.5%で 1.2 ポイント減、乖離率は-1.8%となっています。一方、高齢人口割合 (65 歳～) は、推計では 22.2%でしたが、実績は 23.1%で 0.9 ポイント増、乖離率は 4.1%となっています。

表 推計人口と実績人口の乖離 (7. 浜風小学校区)

		平成22年 (推計)	平成22年 (実績)	乖離	乖離率 (%)
人口(人)	総人口	7,022	7,162	140	2.0
	0～14歳	785	812	27	3.4
	15～64歳	4,681	4,694	13	0.3
	65歳～	1,556	1,656	100	6.4
年少人口割合(0～14歳)(%)		11.2	11.3	0.1	0.9
生産年齢人口割合(15～64歳)(%)		66.7	65.5	△ 1.2	△ 1.8
高齢人口割合(65歳～)(%)		22.2	23.1	0.9	4.1

< 8. 潮見小学校区 (南芦屋浜地区を除く) >

平成 22 年 (2010) の年少人口割合 (0 歳～14 歳) は、推計では 8.6%でしたが、実績は 9.4%で、0.8 ポイント増、乖離率は 9.3%となっています。生産年齢人口割合 (15 歳～64 歳) は、推計では 62.1%でしたが、実績は 61.6%で 0.5 ポイント減、乖離率は-0.8%となっています。一方、高齢人口割合 (65 歳～) は、推計では 29.3%でしたが、実績は 29.0%で 0.3 ポイント減、乖離率は-1.0%となっています。

表 推計人口と実績人口の乖離 (8. 潮見小学校区(南芦屋浜地区を除く))

		平成22年 (推計)	平成22年 (実績)	乖離	乖離率 (%)
人口(人)	総人口	6,033	6,184	151	2.5
	0～14歳	517	583	66	12.8
	15～64歳	3,747	3,807	60	1.6
	65歳～	1,769	1,794	25	1.4
年少人口割合(0～14歳)(%)		8.6	9.4	0.8	9.3
生産年齢人口割合(15～64歳)(%)		62.1	61.6	△ 0.5	△ 0.8
高齢人口割合(65歳～)(%)		29.3	29.0	△ 0.3	△ 1.0

< 9. 南芦屋浜地区 >

平成 22 年 (2010) の年少人口割合 (0 歳～14 歳) は、推計では 20.0%でしたが、実績は 20.3%で、0.3 ポイント増、乖離率は 1.5%となっています。生産年齢人口割合 (15 歳～64 歳) は、推計では 56.5%でしたが、実績は 53.9%で 2.6 ポイント減、乖離率は-4.6%となっています。一方、高齢人口割合 (65 歳～) は、推計では 23.5%でしたが、実績は 25.8%で 2.3 ポイント増、乖離率は 9.8%となっています。

表 推計人口と実績人口の乖離 (9. 南芦屋浜地区)

		平成22年 (推計)	平成22年 (実績)	乖離	乖離率 (%)
人口(人)	総人口	4,800	4,293	△ 507	△ 10.6
	0～14歳	958	873	△ 85	△ 8.9
	15～64歳	2,713	2,314	△ 399	△ 14.7
	65歳～	1,129	1,106	△ 23	△ 2.0
年少人口割合(0～14歳)(%)		20.0	20.3	0.3	1.5
生産年齢人口割合(15～64歳)(%)		56.5	53.9	△ 2.6	△ 4.6
高齢人口割合(65歳～)(%)		23.5	25.8	2.3	9.8

(2) 推計要因の動向と比較・検討

ア 生残率の検証

前回推計時の生残率は、『日本の都道府県別将来推計人口』（平成 19 年 5 月推計）（国立社会保障・人口問題研究所編集 財団法人厚生統計協会発行）のデータを使用した。今回の推計においても、国立社会保障・人口問題研究所発行の「日本の地域別将来推計人口」（平成 25 年 3 月推計）の仮定値を使用するため、検証対象としない。

イ 出生率の検証

今回の推計に当たっては、「日本の地域別将来推計人口」（平成 25 年 3 月推計）の仮定値の「子ども女性比」を採用するため、特に出生率の検証は行わない。

但し、今後の芦屋市の出生の傾向をみるため、の昭和 60 年～平成 22 年（2010）の合計特殊出生率の推移を分析する。

昭和 60 年の芦屋市は 1.51 で、全国の 1.76 の 86%、神戸市・阪神南地域のなかで最も低かった。その後、神戸市・阪神南地域（尼崎市、西宮市、芦屋市）の 3 市と同様に減少傾向で推移し、平成 7 年では 1.08 までに達したが、その後は平成 12 年には 1.24、平成 22 年（2010）は 1.32 と全国、神戸市・阪神南地域とほぼ同様の回復基調にある。

今後の動向は、社会・経済状況の変化や国の支援事業等の充実の程度の影響を受けるが、出生率の減少傾向には一定歯止めがかかったものと判断し、上昇または横ばい傾向が続くものとする。

また、芦屋市の合計特殊出生率※の値は、県に対して平成 12 年では 90%、平成 17 年（2005）では 91%、平成 22 年（2010）では 94%と上昇してきており、今後その差は小さくなるものと想定される。

※合計特殊出生率：女性が一生に出産する子どもの数

<算出方法>

母の年齢区分：15～19 歳，20～24 歳，25～29 歳，30～34 歳，35～39 歳，40～44 歳，45～49 歳の 7 階層

データ：母の年齢 7 階層別人口，母の年齢 7 階層別出生数（1 年）

式：母の年齢 7 階層別出生率＝母の年齢 7 階層別出生数÷母の年齢 7 階層別人口

合計特殊出生率＝母の年齢 7 階層別出生率×5 年

図 合計特殊出生率の推移

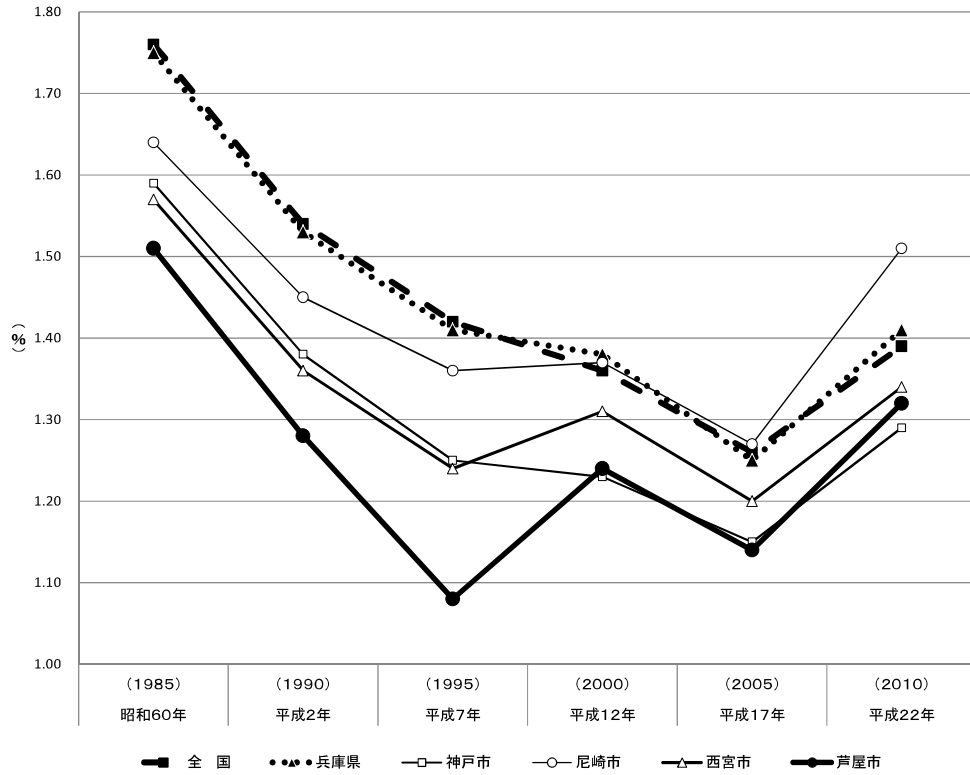


表 合計特殊出生率の推移

市区町	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)
全国	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39
兵庫県	1.75	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41
神戸市	1.59	1.38	1.25	1.23	1.15	1.29
阪神南地域 尼崎市	1.64	1.45	1.36	1.37	1.27	1.51
西宮市	1.57	1.36	1.24	1.31	1.20	1.34
芦屋市	1.51	1.28	1.08	1.24	1.14	1.32
県値に対する芦屋市の割合	0.86	0.84	0.77	0.90	0.91	0.94

資料: 保健統計年報

ウ 母の年齢別出生率の都市比較

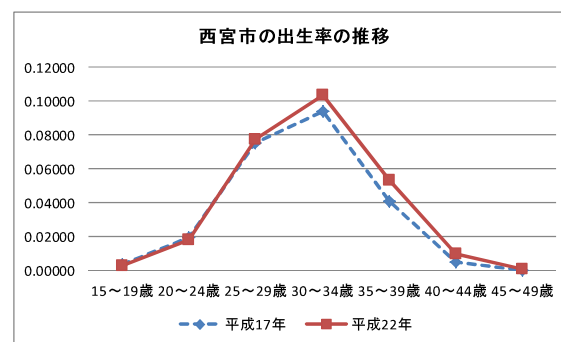
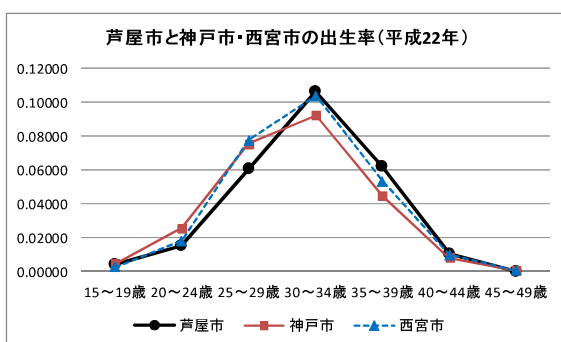
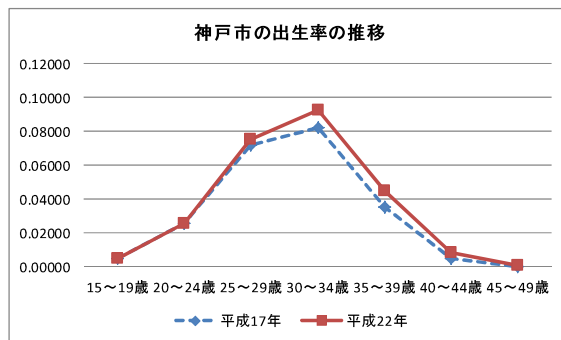
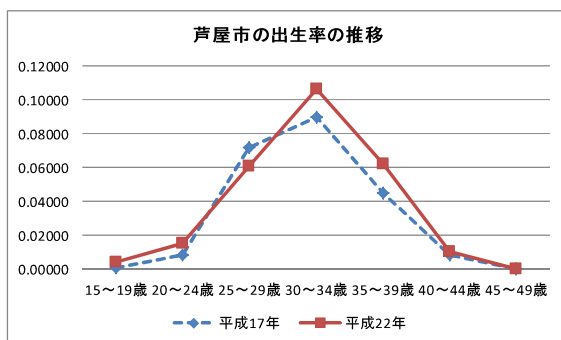
母の年齢別出生率について、隣接地域の神戸市、西宮市と比較し、芦屋市の年齢別出生率の特性を分析する。

芦屋市の年齢別出生率をみると、平成17年（2005）は母の年齢が30～34歳が0.08990と最も高く、次いで25～29歳が0.07171、35～39歳が0.04479となっており、平成22年（2010）では30～34歳が18%増加して0.10595、35～39歳が39%増加して0.06205と年齢の高い層での増加が著しい。他の年齢層は大きな変化がない。

平成22年の年齢別出生率をみると、芦屋市の20～29歳の年齢層は、神戸市、西宮市と比較すると低いですが、30～39歳の年齢層では逆に高くなっているのが、特徴的です。

表 平成17～22年神戸市、西宮市、芦屋市の母の年齢別出生率の算出

	芦屋市			神戸市			西宮市		
	平成17年	平成22年	変化率	平成17年	平成22年	変化率	平成17年	平成22年	変化率
15～19歳	0.00051	0.00375	735.3	0.00444	0.00465	104.7	0.00325	0.00244	75.1
20～24歳	0.00824	0.01543	187.3	0.02528	0.02580	102.1	0.01934	0.01809	93.5
25～29歳	0.07171	0.06063	84.5	0.07204	0.07550	104.8	0.07527	0.07728	102.7
30～34歳	0.08990	0.10595	117.9	0.08231	0.09213	111.9	0.09366	0.10380	110.8
35～39歳	0.04479	0.06205	138.5	0.03548	0.04465	125.8	0.04044	0.05320	131.6
40～44歳	0.00848	0.01053	124.2	0.00450	0.00819	182.0	0.00465	0.00965	207.5
45～49歳	0.00000	0.00000	-	0.00027	0.00033	122.2	0.00014	0.00036	257.1
合計特殊出生率	1.11815	1.29170	115.5	1.12160	1.25625	112.0	1.18375	1.32410	111.9



<合計特殊出生率の算出>

出生数は当該年の1月～12月合計数、母の5年齢別人口は国勢調査人口（年齢不詳は含まない）

<5年齢別出生率> = 母の5年齢別の出生数 ÷ 母の人口（15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳、40～44歳、45～49歳）

<合計特殊出生率> = 母の5年齢別出生率 × 5年

3 将来人口推計

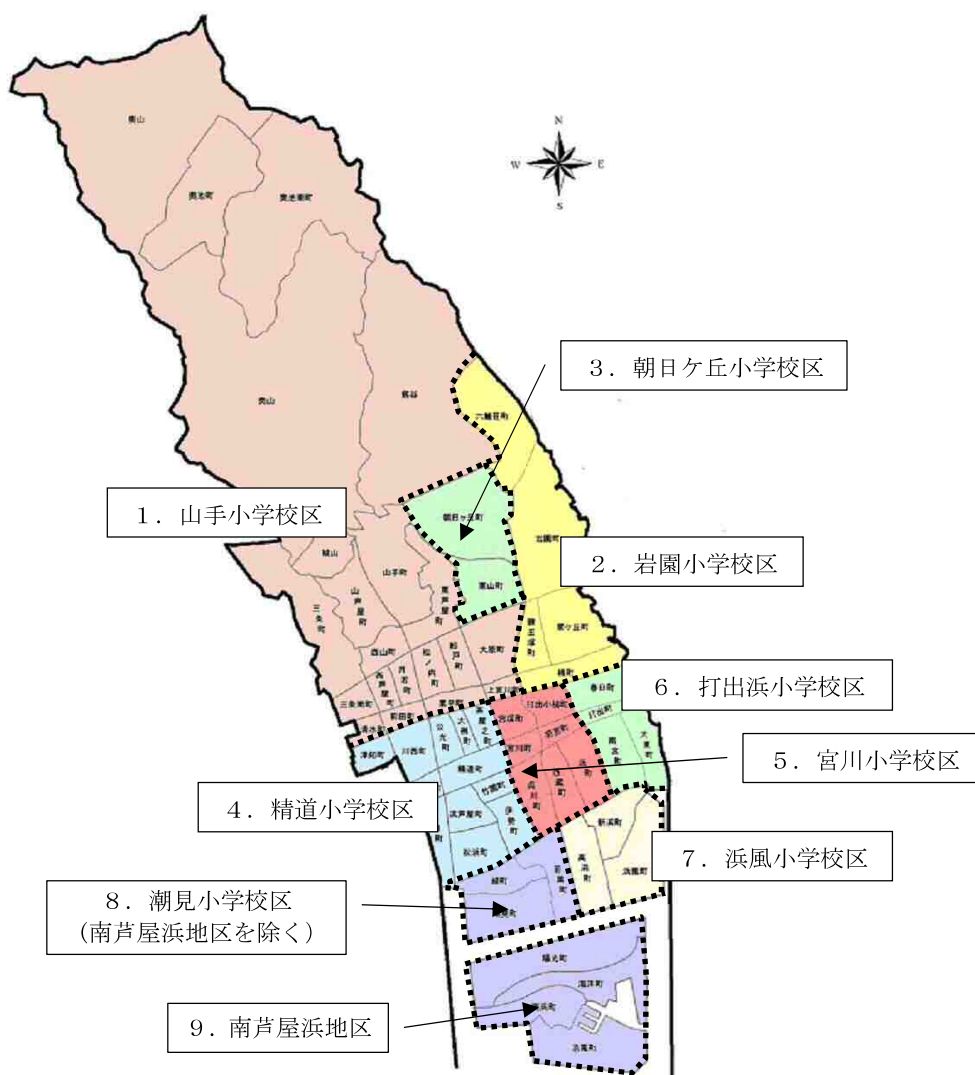
(1) 推計条件の設定

将来人口推計は、以下の条件の下で行う。

- ・基準年：平成22年（2010）
- ・推計期間：平成22年（2010）から平成77年（2065）の55年間（5年ごとに推計）
- ・基準人口：小学校区別・男女別・5歳年齢別人口（平成22年（2010）10月1日 国勢調査）
- ・対象地域：小学校区別及び市全体

（潮見小学校区のうち、南芦屋浜地区は独立した区域として別途推計）

図 本市の小学校区



(2) 推計方法の設定

今回の推計方法の設定については、前回推計結果の妥当性を踏まえ、前回と同様にコーホート要因法を用いる。

但し、「出生率」については、国立社会保障・人口問題研究所の最新（「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」）の都市別人口推計方法が、母の年齢別出生率を使用せず、「子ども女性比」を使用していること、且つ芦屋市の仮定値を設定しているためこれを採用する。

また、「純移動率」について、国立社会保障・人口問題研究所が設定している芦屋市の仮定値ではなく、独自に小学校区別に算出するものとする。

ア コーホート要因法

コーホート要因法とは、各年齢層の人口集団を年次的に捉え、その変化量、変化率を用いる推計方法をいう。人口変化要因としては、「生残率」、「純移動率」、「出生率」、「出生男女比」の 4 つとし、各要因の将来値（仮定値）を設定し、各男女別年齢別の将来人口を推計する方法である。但し、ここでは「出生率」は「子ども女性比」に置き換える。

<コーホート要因法による推計の手順>

基準年 = t 年 次推計年 = t + 5 年

(7) 5 歳～9 歳以上の 5 歳年齢別人口の推計

基準年 = t

生残率 = 国立社会保障・人口問題研究所の仮定値

純移動率 = 独自推計（t-5 年から t 年の純移動率を t 年から t+5 年の純移動率と同じと仮定）

【純移動率の算出方法】（小学校区別）

式 $\frac{\text{t-5 年から t 年の年齢別移動人口}}{\text{t 年の年齢別実人口} - (\text{t-5 年人口を基準とする封鎖型人口推計※で算出した t 年の推計人口})}$

※封鎖型人口推計 = 生残率のみを変化要因とする推計方法

式 $\frac{\text{t-5 年から t 年の純移動率}}{\text{t 年の年齢別移動人口} \div \text{t-5 年の年齢別人口}}$

式 $\text{t+5 年の年齢別人口} = \text{t 年の年齢別人口} \times \{ \text{生残率} (\text{t 年から t+5 年}) + \text{純移動率} (\text{t 年から t+5 年}) \}$

(イ) 0歳～4歳人口の推計

式 $t+5$ 年の男女別出生数

=母の年齢別人口×子ども女性比×0～4歳性比

(ウ) 小学校区別人口 = 5歳～9歳以上の5歳年齢別推計人口 +
0歳～4歳推計人口

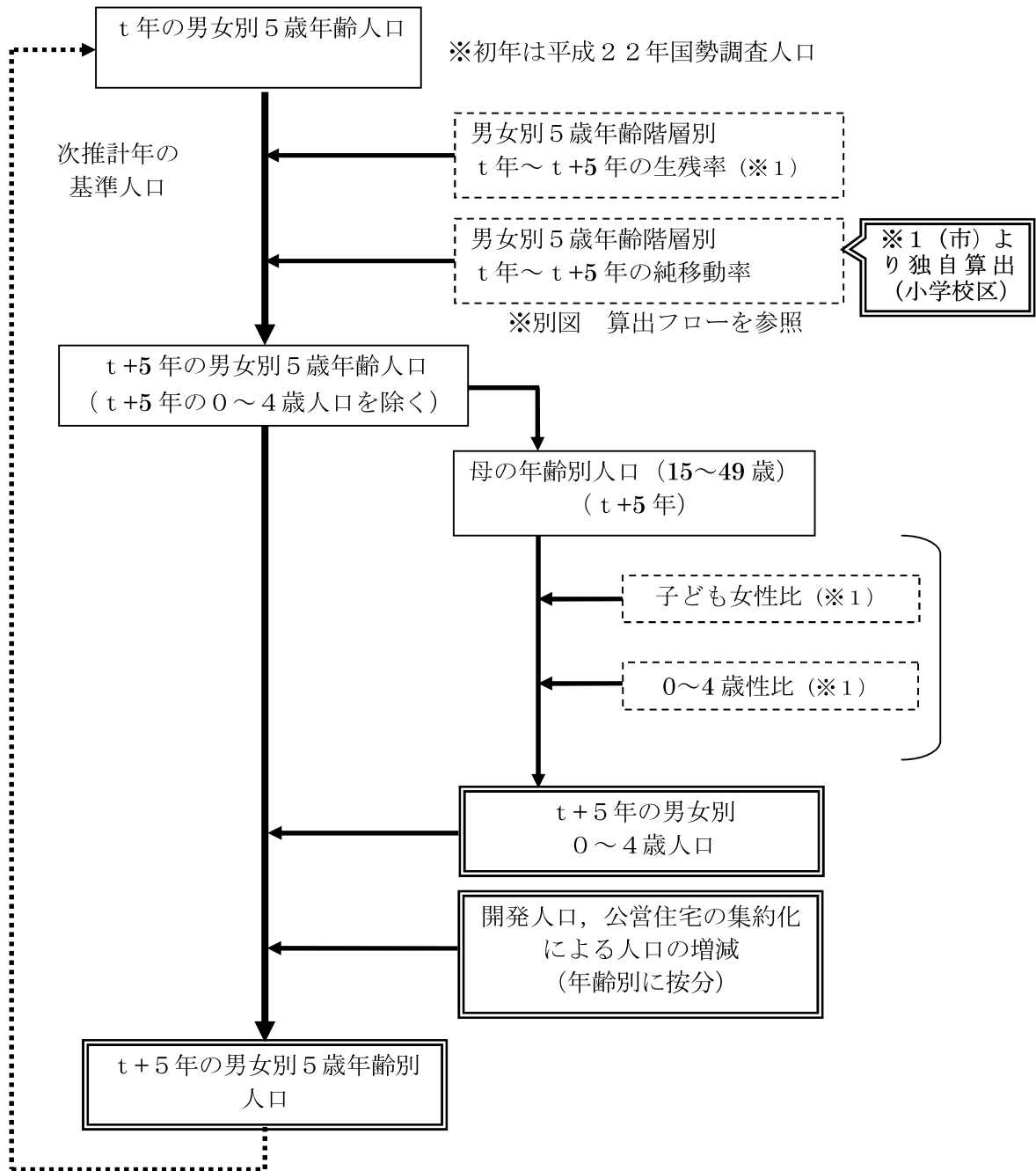
(エ) 芦屋市人口 = 小学校区別人口

(7小学校区+1小学校区(1地区を除く)+1地区)の合計

【用語解説】

- ・ 生残率：ある年齢 x 歳の人口が、5年後に $x+5$ 歳になるまで死亡しない確率。
- ・ 純移動率：5歳年齢別人口に占める5年後の5歳年齢別純移動数（社会動態による人口の増減数）の割合。
- ・ 出生率：15歳～49歳女性人口（5歳年齢別）が出生する割合。
- ・ 出生男女比：出生児の女性を基準（100）とする男性の割合。
- ・ 子ども女性比：15歳～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比。
- ・ 0～4歳性比：0～4歳人口の女性を基準（100）とする男性の割合。

図 コーホート要因法の全体推計フロー



※1. 国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」の假定値を使用

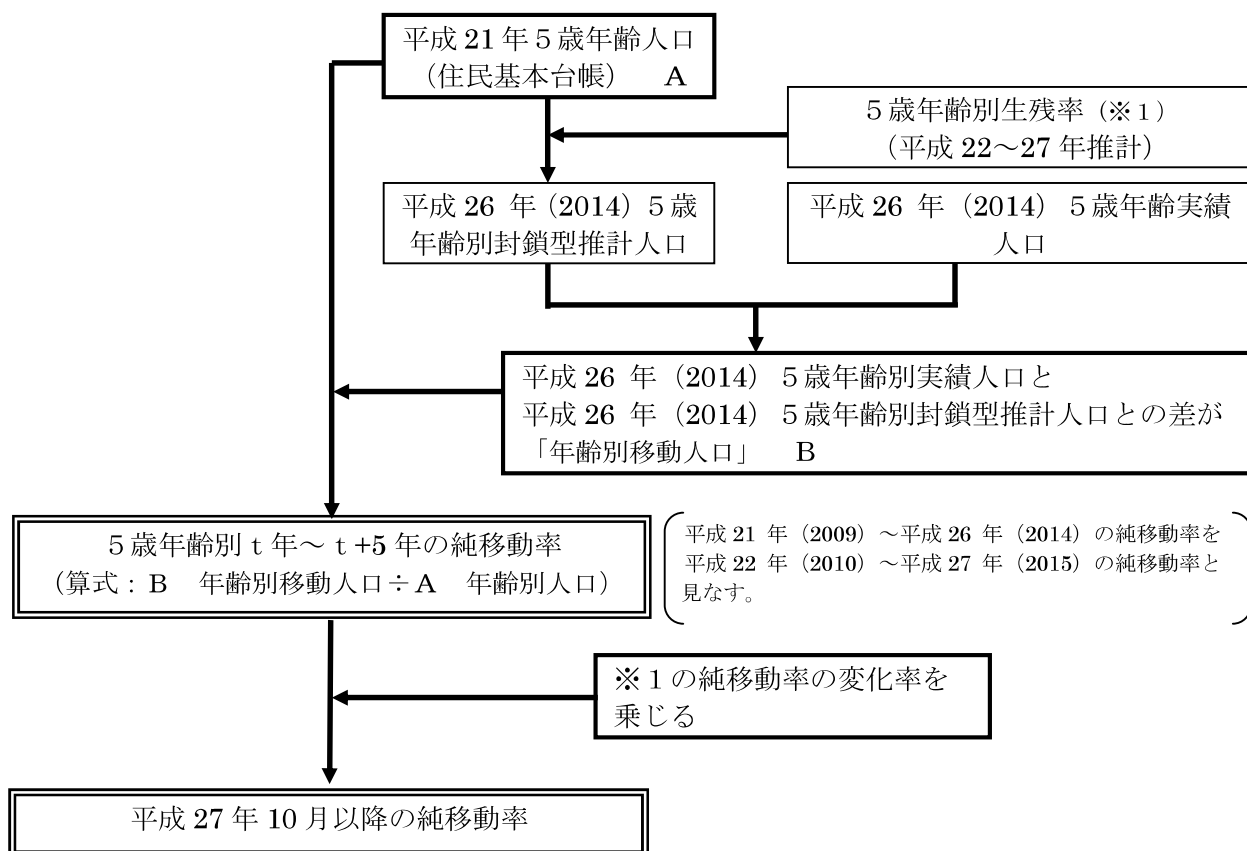
■ 5歳年齢階層別 t 年～ t + 5 年後の純移動率の算出（小学校区単位）

【前提条件】

- ・純移動率は小学校区単位で個別に算出
- ・基準となる純移動率は平成 22 年（2010）～27 年の 5 年間が必要であるが，平成 27 年（2015）国勢調査データは存在しないため，住民基本台帳人口（日本人 + 外国人）データを用いる。
- ・但し，平成 21 年（2009）10 月→平成 26 年（2014）10 月の純移動率を，平成 22 年（2010）10 月（基準年）→平成 27 年（2015）10 月と仮定する。
- ・平成 27 年（2015）10 月以降の純移動率は※ 1 の純移動率の変化率を援用し，算出する。

図 5歳年齢別 t 年～ t + 5 年の純移動率の算出フロー（小学区単位）

t 年 = 平成 22 年（2010） t + 5 年 = 平成 27 年（2015）



※ 1. 国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」の仮定値を使用

(3) 推計要因の設定

推計の前提となる、推計要因4つの仮定値、及びその他の要因について説明する。

ア 「生残率」

生残率は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」の芦屋市の仮定値データを使用する。

但し、平成52年（2040）以降、最終推計年の平成77年（2065）までは、平成47年→平成52年（2040）の仮定値が変化しないものと仮定する。

表 男女別5歳年齢別生残率（平成22（2010）～平成52年（2040））

生残率・男

	平成22→27年 (2010→2015)	平成27→32年 (2015→2020)	平成32→37年 (2020→2025)	平成37→42年 (2025→2030)	平成42→47年 (2030→2035)	平成47→52年 (2035→2040)
0～4歳→5～9歳	0.99919	0.99930	0.99938	0.99944	0.99950	0.99954
5～9歳→10～14歳	0.99952	0.99957	0.99961	0.99965	0.99968	0.99970
10～4歳→15～19歳	0.99916	0.99924	0.99930	0.99935	0.99940	0.99943
15～19歳→20～24歳	0.99757	0.99774	0.99789	0.99801	0.99812	0.99822
20～24歳→25～29歳	0.99676	0.99693	0.99706	0.99719	0.99730	0.99740
25～29歳→30～34歳	0.99672	0.99687	0.99698	0.99708	0.99716	0.99724
30～34歳→35～39歳	0.99596	0.99616	0.99631	0.99645	0.99656	0.99667
35～39歳→40～44歳	0.99401	0.99432	0.99457	0.99479	0.99498	0.99514
40～44歳→45～49歳	0.99067	0.99119	0.99160	0.99196	0.99227	0.99254
45～49歳→50～54歳	0.98493	0.98576	0.98641	0.98699	0.98750	0.98795
50～54歳→55～59歳	0.97592	0.97723	0.97828	0.97919	0.98001	0.98073
55～59歳→60～64歳	0.96232	0.96431	0.96590	0.96731	0.96855	0.96967
60～64歳→65～69歳	0.95062	0.95349	0.95576	0.95778	0.95957	0.96119
65～69歳→70～74歳	0.92904	0.93371	0.93736	0.94056	0.94337	0.94588
70～74歳→75～79歳	0.87200	0.88071	0.88763	0.89364	0.89888	0.90350
75～79歳→80～84歳	0.77680	0.79077	0.80193	0.81177	0.82049	0.82825
80～84歳→85～89歳	0.64906	0.66910	0.68509	0.69935	0.71212	0.72361
85歳以上→90歳以上	0.37868	0.39512	0.40871	0.42107	0.43235	0.44265

生残率・女

	平成22→27年 (2010→2015)	平成27→32年 (2015→2020)	平成32→37年 (2020→2025)	平成37→42年 (2025→2030)	平成42→47年 (2030→2035)	平成47→52年 (2035→2040)
0～4歳→5～9歳	0.99920	0.99929	0.99936	0.99942	0.99947	0.99952
5～9歳→10～14歳	0.99958	0.99962	0.99965	0.99968	0.99971	0.99973
10～4歳→15～19歳	0.99952	0.99955	0.99958	0.99960	0.99962	0.99963
15～19歳→20～24歳	0.99873	0.99880	0.99886	0.99892	0.99897	0.99902
20～24歳→25～29歳	0.99836	0.99845	0.99853	0.99860	0.99867	0.99873
25～29歳→30～34歳	0.99822	0.99832	0.99841	0.99848	0.99855	0.99861
30～34歳→35～39歳	0.99764	0.99779	0.99790	0.99800	0.99808	0.99816
35～39歳→40～44歳	0.99664	0.99684	0.99698	0.99712	0.99723	0.99734
40～44歳→45～49歳	0.99497	0.99526	0.99549	0.99569	0.99587	0.99602
45～49歳→50～54歳	0.99262	0.99303	0.99335	0.99362	0.99387	0.99408
50～54歳→55～59歳	0.98880	0.98941	0.98990	0.99033	0.99070	0.99104
55～59歳→60～64歳	0.98436	0.98517	0.98582	0.98639	0.98689	0.98733
60～64歳→65～69歳	0.97748	0.97870	0.97964	0.98046	0.98118	0.98181
65～69歳→70～74歳	0.96210	0.96440	0.96624	0.96785	0.96927	0.97054
70～74歳→75～79歳	0.93651	0.94101	0.94459	0.94769	0.95042	0.95283
75～79歳→80～84歳	0.88842	0.89718	0.90409	0.91010	0.91535	0.92001
80～84歳→85～89歳	0.78928	0.80561	0.81853	0.82980	0.83968	0.84841
85歳以上→90歳以上	0.49748	0.51436	0.52818	0.54058	0.55175	0.56186

出典：「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）

イ 「純移動率」

(7) 小学校区別の純移動率の算定

男女別・5歳年齢別純移動率を設定するに当たって、最新の人口動向を反映させることが重要であるが、国勢調査の最新年が平成22年（2010）である。

そのため、住民基本台帳及び外国人登録人口（法律改正により平成24年8月（月データ）から外国人は住民基本台帳人口に含まれる）の「平成21年（2009）10月1日現在を基準として、5年後の「平成26年（2014）10月1日の人口の純移動量を求め、純移動率を設定するものとする。

純移動率については、近年においては転出・転入人口規模が縮小しているため経年変化も少なく、また、住宅開発の受け皿となるまとまった遊休土地の供給の可能性は低いと考えられるため、今後も急速な転出人口、転入人口の大きな変化は想定し難い。

従って、独自に純移動率の変化を想定せず、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」の芦屋市の仮定値の変化率を援用し、平成27年（2015）以降の純移動率を設定する。

<前提条件>

- ・ 平成21年（2009）を基準年とし、平成26年（2014）の5年間の5歳年齢別の純移動率を求める。
- ・ 使用する人口データは、「平成21年（2009）10月1日現在の住民基本台帳人口と外国人登録人口」（男女別・5歳年齢別）と「平成26年（2014）10月1日現在の住民基本台帳人口（日本人+外国人）」（男女別・5歳年齢別）を使用し、小学校区別に集計する。
- ・ 使用する生残率は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」の芦屋市の仮定値データを使用する。

<算定方法>

- ・ 平成21年（2009）の人口に生残率を乗じ、平成26年（2014）の封鎖型推計人口を算出する。平成26年（2014）仮定の人口（封鎖型推計）と実績人口との差が移動量であり、これを当該年齢区分ごとに求め、基準年の人口を母数として算出したものが純移動率である。

<算定結果>

- ・ 小学校区別の純移動率は以下の通りに算出した。平成 21 年 (2009) ~平成 26 年 (2014) の 5 年間の純移動率を平成 22 年 (2010) から 27 年の 5 年間の純移動率と同様と見なす。
- ・ 平成 27 年 (2015) 以降の純移動率は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口 (平成 25 年 3 月推計)」の芦屋市の純移動率の変化率を援用し算出する。
- ・ 平成 52 年 (2040) 以降の純移動率は、平成 47→52 年純移動率と同じとする。

$$\begin{aligned} & \text{式：平成 27} \rightarrow \text{32 年純移動率 (小学校区別)} \\ & = \text{平成 22} \rightarrow \text{27 年純移動率 (小学校区別)} \times \\ & \quad (\text{平成 27} \sim \text{32 年純移動率 (芦屋市} \ast 1) \div \text{平成 22} \sim \text{27 年純移動率 (芦屋市} \ast 1)) \end{aligned}$$

※ 1 「日本の地域別将来推計人口 (平成 25 年 3 月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所) の仮定値

表 純移動率 (平成 21→26 年 (平成 22~27 年と見なす) の算出結果

年齢区分	1. 山手		2. 岩園		3. 朝日ヶ丘		4. 精道		5. 宮川	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
出生→0~4歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0~4歳→5~9歳	0.01951	-0.00233	0.13269	0.22932	-0.06757	0.00000	-0.00303	-0.09709	-0.12893	0.01873
5~9歳→10~14歳	0.09499	0.10714	-0.06052	0.01408	0.01224	0.03226	-0.05215	-0.08176	-0.03333	0.01068
10~14歳→15~19歳	0.03621	0.15847	-0.01020	-0.03207	0.31466	0.08108	-0.02713	0.01027	-0.02555	0.01681
15~19歳→20~24歳	0.00882	0.17585	-0.06569	-0.01224	-0.25882	-0.01914	0.14222	0.25100	-0.00826	0.06019
20~24歳→25~29歳	-0.09669	0.05374	-0.03182	0.09705	-0.25541	0.02538	-0.04290	0.11327	-0.18543	0.18443
25~29歳→30~34歳	0.08333	0.00862	0.04215	0.08721	-0.03398	0.07826	0.05476	0.02817	0.16725	0.03529
30~34歳→35~39歳	0.03065	0.03356	0.12034	0.16009	0.10000	0.01954	-0.03917	-0.07131	-0.05651	-0.06433
35~39歳→40~44歳	0.07792	0.02648	0.13376	0.06260	-0.04762	0.01342	0.03545	-0.00939	-0.01667	-0.02853
40~44歳→45~49歳	0.02599	0.10048	0.05214	0.01012	0.00806	0.00889	-0.01544	0.01933	0.00647	0.02935
45~49歳→50~54歳	0.00597	0.03723	0.04608	0.04691	-0.03021	0.00792	-0.01774	0.00992	-0.03015	-0.01241
50~54歳→55~59歳	0.05405	0.01286	0.06557	0.04048	-0.01064	0.06442	0.02542	0.03546	0.00000	0.00000
55~59歳→60~64歳	0.01485	0.00271	0.02452	-0.00222	0.04778	0.02360	0.03893	0.01732	-0.01381	0.01460
60~64歳→65~69歳	0.02119	0.00703	0.04914	-0.00199	0.04967	0.00000	0.00895	0.02935	-0.00575	-0.01288
65~69歳→70~74歳	-0.00531	0.03013	-0.02514	-0.01636	0.03404	-0.01765	0.00000	0.01511	-0.01299	-0.01567
70~74歳→75~79歳	0.00000	-0.02212	-0.04452	0.01005	0.05069	-0.01038	0.00000	0.04106	0.01606	0.02121
75~79歳→80~84歳	0.07470	-0.00697	0.06140	0.01105	0.01010	0.05447	0.01205	0.01869	0.01010	0.04082
80~84歳→85~89歳	0.01672	-0.05066	0.07778	-0.03492	0.04444	-0.04245	0.00000	0.01575	0.04444	-0.01339
85歳以上→90歳以上	0.04918	0.03441	0.00690	0.05405	0.03896	0.04545	-0.01053	0.00752	0.17722	0.00420

年齢区分	6. 打出浜		7. 浜風		8-1. 潮見		8-2. 南芦屋浜地区	
	男	女	男	女	男	女	男	女
出生→0~4歳	-	-	-	-	-	-	-	-
0~4歳→5~9歳	-0.06419	0.02756	0.02344	-0.03125	-0.13131	-0.17526	0.24706	0.25000
5~9歳→10~14歳	0.04979	-0.05858	0.09220	0.02685	0.00000	0.02410	0.16547	0.12879
10~14歳→15~19歳	0.03433	0.13706	0.04878	-0.01235	0.07143	0.15000	0.06897	0.01887
15~19歳→20~24歳	0.03191	0.01053	-0.02083	-0.12565	-0.04268	0.13934	0.04545	-0.05682
20~24歳→25~29歳	-0.00467	0.13889	-0.27143	-0.14762	-0.31288	-0.22024	-0.03509	0.00000
25~29歳→30~34歳	0.14683	0.06061	-0.03922	-0.03196	-0.26289	-0.26512	0.76923	0.53000
30~34歳→35~39歳	-0.04935	-0.03538	-0.01429	0.00000	-0.24457	-0.13761	0.50407	0.42857
35~39歳→40~44歳	-0.05240	-0.01386	-0.02183	0.03396	-0.12698	-0.13675	0.18841	0.14097
40~44歳→45~49歳	-0.03846	0.04178	-0.09649	-0.02128	0.01220	0.02525	0.09143	0.07065
45~49歳→50~54歳	0.04895	0.07339	-0.00457	-0.04364	0.01493	-0.06341	0.12712	0.23577
50~54歳→55~59歳	0.04478	0.01954	-0.01288	-0.01017	0.06122	-0.04825	0.15116	0.15190
55~59歳→60~64歳	-0.01278	-0.00885	0.03846	0.01506	-0.04661	0.00000	0.54930	0.58696
60~64歳→65~69歳	-0.06069	0.02320	0.00862	0.00000	0.00943	-0.04749	0.35398	0.54331
65~69歳→70~74歳	-0.03030	0.02564	-0.00707	0.03537	-0.00683	0.00880	0.37864	0.58915
70~74歳→75~79歳	-0.06726	0.00664	0.03804	0.00465	-0.00837	0.00433	0.40594	0.59028
75~79歳→80~84歳	0.05028	0.00803	0.02290	-0.08333	0.01290	0.00685	0.56383	0.45926
80~84歳→85~89歳	-0.00893	0.00602	-0.01639	0.07229	0.05405	-0.06061	0.32609	0.51064
85歳以上→90歳以上	-0.09434	-0.06667	0.05882	0.10989	0.02941	0.14286	0.43478	0.20455

資料：住民基本台帳、外国人登録

ウ 子ども女性比

子ども女性比は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（平成25年3月推計）」の芦屋市の仮定値データを使用する。

但し、平成52年（2040）以降、最終推計年の平成77年（2065）までは、平成47年（2035）→平成52年（2040）の仮定値が変化しないものとする。

表 子ども女性比（0～4歳人口÷15～49歳女性人口）

平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)
0.19229	0.17920	0.17850	0.18304	0.18745	0.18816

エ 0～4歳性比（男性人口÷女性人口×100）

0～4歳性比は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（平成25年3月推計）」の芦屋市の仮定値を使用する。

但し、平成52年（2040）以降、最終推計年の平成77年（2065）までは、平成47年（2035）→平成52年（2040）の仮定値が変化しないものとする。

表 0～4歳性比（男性人口÷女性人口×100）

単位＝%

平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)
105.41	105.40	105.40	105.40	105.40	105.41

オ その他要因

芦屋市における人口の増加及び減少の要因となるものとして、今回の推計に反映した住宅開発計画及び市営住宅の建替え計画は以下の通りである。

南芦屋浜地区での住宅開発により今後も人口は増加する。また、高浜町への市営住宅の集約化により、市営住宅から高浜町への転居や市営住宅跡地での新規住宅開発により人口は増加する。一方、既存市営住宅から高浜町への転居により当該の小校区では平成32年(2020)、平成37年(2025)の人口が減少する。

(7) 南芦屋浜地区における住宅開発計画

南芦屋浜地区は、兵庫県企業庁によって、計画数3,000戸、計画人口8,000人として開発されている。

本推計においては、推計時点での平均世帯人員※で計算し、開発人口を以下のように推定している。

町名	平均世帯人員
涼風町	2.75
海洋町	1.92

※平均世帯人員は計画されている各町の平成26年10月1日現在の住民基本台帳より算出した

平成32年(2020)：641人(戸建)

平成37年(2025)：530人(戸建, マンション)

(4) 市営住宅の建替え計画

南宮町、浜町、西蔵町、翠ヶ丘町、朝日ヶ丘町の市営住宅が廃止され、既存入居者は高浜町の市営住宅に転居となる。

転居人数及び跡地住宅開発による人口は、以下のように推定される。

- ・ 南宮町、浜町、西蔵町、翠ヶ丘町、朝日ヶ丘町から高浜町に転居する人数：794人
- ・ 跡地住宅開発による計画人口(入居可能人口)：914人

表 転居元の市営住宅戸数・人口(入居+未入居)と転居先市営住宅入居戸数・人口

小学校区	町名	転居元				転居先高浜町		
		戸数	構成比(%)	平均世帯人員	入居可能人口	転居戸数	平均世帯人員	高浜町への転居人数
6. 打出浜	南宮町	48	11.9	2.39	115	42	2.27	95
5. 宮川	浜町	108	26.8	2.23	241	94	2.27	213
5. 宮川	西蔵町	96	23.8	2.25	216	83	2.27	188
2. 岩園	翠ヶ丘	24	6.0	2.32	56	21	2.27	48
3. 朝日ヶ丘町	朝日ヶ丘	127	31.5	2.25	286	110	2.27	250
	合計	403	100.0	2.27	914	350		794

※世帯人員は各町の住民基本台帳(平成26年10月1日現在)

※転居元の市営住宅跡地には新規住宅開発により、入居可能人口(914)相当が当該町に入居するものと想定する。入居年平成37年とする。

※高浜町への転居時期は平成32年までとする(平成30年4月入居開始予定)

(4) 将来人口推計結果のまとめ

将来人口推計フローに基づいて、平成22年(2010)を基準年として、平成77年(2065)までの55年間の小学校区ごとに、男女別5歳年齢別人口を算出した。

ア 芦屋市(合計)人口

(7) 総人口

小学校区別の人口データを集計し、芦屋市の総人口を算出した。

本市の平成22年(2010)人口は93,238人(国勢調査)で、平成27年(2015)はやや増加して94,851人となり、平成37年(2025)までは増加傾向で推移しますが、その後は減少傾向となり、50年後の平成72年(2060)には73,848人と、平成22年(2010)に比べて21%減少する。

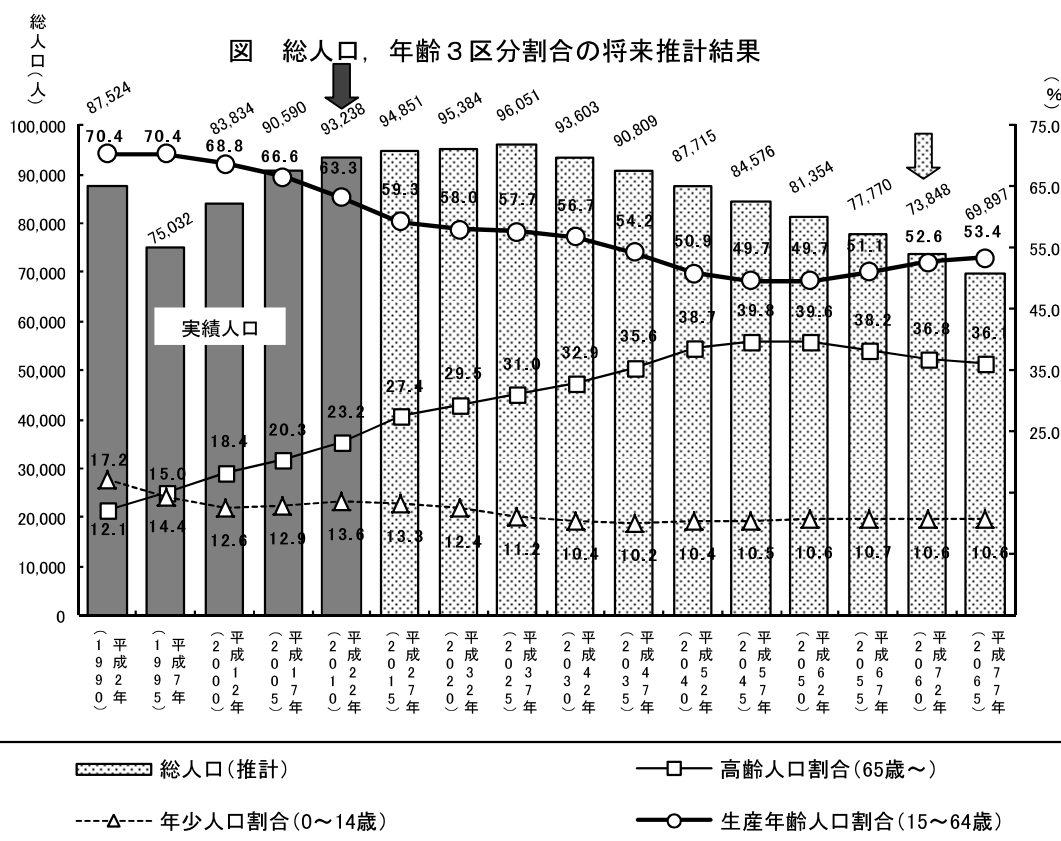


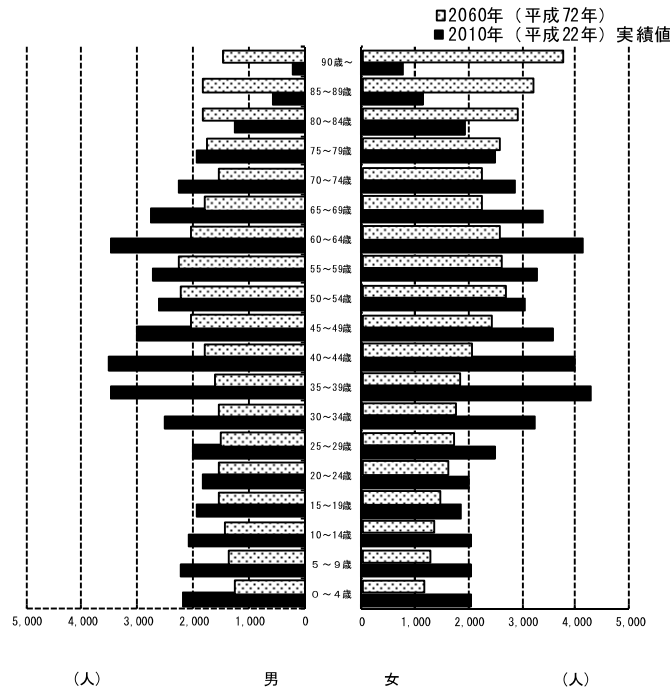
表 芦屋市(合計)の将来人口推計結果

	実績人口(国勢調査)					推計人口										
	平成2年(1990)	平成7年(2000)	平成12年(2005)	平成17年(2010)	平成22年(2015)	平成27年(2020)	平成32年(2025)	平成37年(2030)	平成42年(2035)	平成47年(2040)	平成52年(2045)	平成57年(2050)	平成62年(2055)	平成67年(2060)	平成72年(2065)	
総人口	87,524	75,032	83,834	90,590	93,238	94,851	95,384	96,051	93,603	90,809	87,715	84,576	81,354	77,770	73,848	69,897
男	41,130	34,928	38,705	41,391	42,385	42,810	42,763	42,782	41,448	40,040	38,560	37,081	35,557	33,904	32,165	30,499
女	46,394	40,104	45,129	49,199	50,853	52,041	52,621	53,269	52,155	50,769	49,155	47,495	45,797	43,866	41,683	39,398
0~14歳	15,022	10,792	10,575	11,727	12,641	12,639	11,853	10,790	9,770	9,287	9,084	8,911	8,646	8,295	7,850	7,396
15~64歳	61,623	52,834	57,686	60,298	58,980	56,225	55,353	55,469	53,082	49,223	44,659	42,022	40,470	39,747	38,851	37,299
65歳~	10,576	11,292	15,427	18,422	21,617	25,987	28,178	29,792	30,751	32,299	33,972	33,643	32,238	29,728	27,147	25,202
年少人口割合(0~14歳) %	17.2	14.4	12.6	12.9	13.6	13.3	12.4	11.2	10.4	10.2	10.4	10.5	10.6	10.7	10.6	10.6
生産年齢人口割合(15~64歳) %	70.4	70.4	68.8	66.6	63.3	59.3	58.0	57.7	56.7	54.2	50.9	49.7	49.7	51.1	52.6	53.4
高齢人口割合(65歳~) %	12.1	15.0	18.4	20.3	23.2	27.4	29.5	31.0	32.9	35.6	38.7	39.8	39.6	38.2	36.8	36.1

(イ) 年齢構成

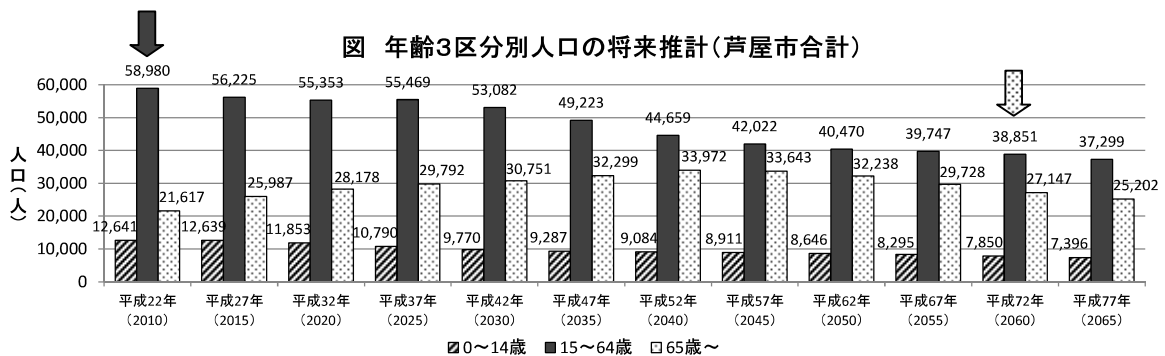
平成 22 年 (2010) と平成 72 年 (2060) の人口ピラミッドを比較していくと、男女ともほとんどの年齢層で減少するが、80 歳以上の高年齢層では増加は著しい。一方の生産年齢の中心となる 30 歳から 49 歳の年齢層は半減し、また 0～9 歳の年齢層も半減する。

図 芦屋市人口の年齢構成 (人口ピラミッド)



(ウ) 年齢3区分の将来人口

年少人口 (0 歳～14 歳) は、平成 22 年 (2010) は 12,641 人でしたが、横ばい傾向化から減少傾向に進み、平成 72 年 (2060) は 7,850 人と 38%減少し、生産年齢人口 (15 歳～64 歳) も平成 22 年 (2010) は 58,980 人でしたが、減少傾向で推移し、平成 72 年 (2060) は 38,851 人と 34%減少する。一方、高齢人口 (65 歳～) は、平成 22 年 (2010) の 21,617 人から増加傾向で推移し、平成 52 年 (2040) の 33,972 人をピークとしてその後は減少し、平成 72 年 (2060) は 27,147 人となるが、平成 22 年に比べて 26%増加する。



イ 小学校区別将来人口推計の結果

(7) 山手小学校区

奥山，奥池町，奥池南町，劔谷，城山，山手町，山芦屋町，東芦屋町，西山町，三条町，大原町，船戸町，松ノ内町，月若町，西芦屋町，三条南町，上宮川町，業平町，前田町，清水町

総人口は，平成 22 年（2010）の 19,237 人から増加傾向し，平成 32 年には 19,739 人となるが，その後は減少傾向で推移し，平成 72 年（2060）では 17,007 人となり，平成 22 年（2010）に比べて 12%減少する。

年少人口（0 歳～14 歳）は，平成 22 年（2010）の 2,273 人から増加傾向で推移し，平成 27 年（2015）には 2,478 人でとなるが，その後は減少傾向で推移し，平成 72 年（2060）は 1,956 人で平成 22 年（2010）に比べて，14%減少する。生産年齢人口（15 歳～64 歳）は，平成 22 年（2010）の 12,200 人から減少傾向で推移し，平成 72 年（2060）では 9,251 人と，平成 22 年（2010）に比べて 24%減少する。高齢人口（65 歳～）は，平成 22 年（2010）の 4,764 人から増加傾向で推移し，平成 52 年（2040）は 7,024 人とピークに達するが，その後は減少し平成 72 年（2060）で 5,800 人と，平成 22 年（2010）と比べて 22%増加する。

年少人口割合（0 歳～14 歳）は平成 22 年（2010）の 11.8%から横ばい傾向で推移し，平成 72 年（2060）は 11.5%となる。生産年齢人口割合（15 歳～64 歳）は，平成 22 年（2010）の 63.4%から減少し，平成 57 年（2045）の 50.8%を底として，増加傾向で推移し，平成 72 年（2060）は 54.4%となる。高齢人口割合（65 歳～）は平成 22 年（2010）が 24.8%で，増加傾向で推移し，平成 57 年（2045）の 37.9%をピークとしてその後は減少し，平成 72 年（2060）は 34.1%となる。

図 総人口の将来推計結果（山手）

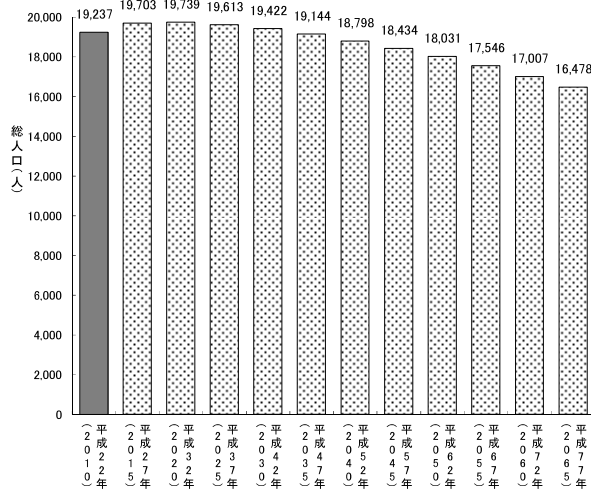


図 年齢3区分割合の将来推計結果（山手）

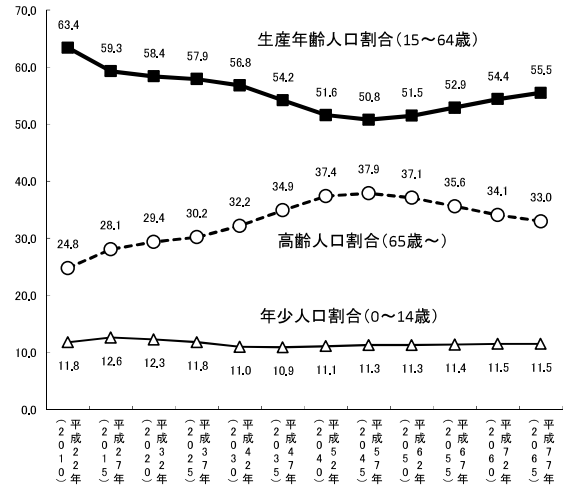


表 年齢3区分人口の将来推計結果（山手）

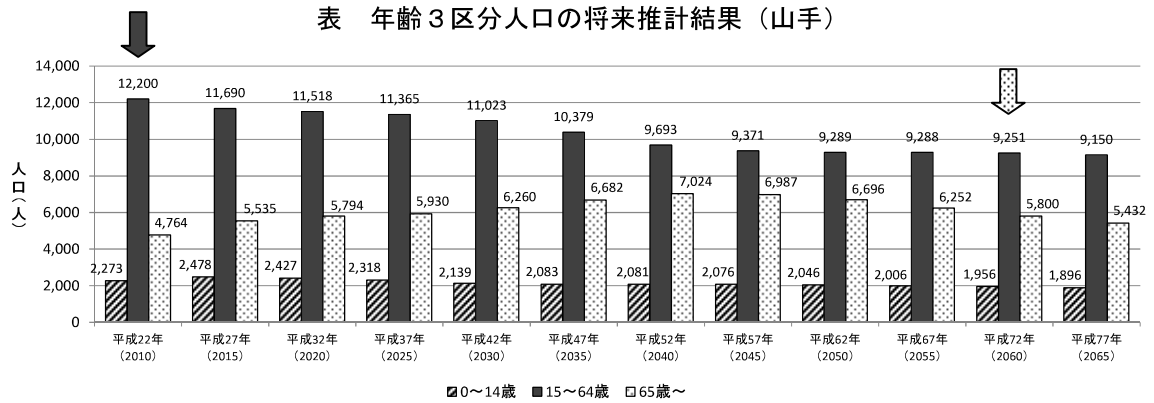


表 将来人口推計結果（山手）

	実績人口 (国勢調査)	推計人口										
		平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口	19,237	19,703	19,739	19,613	19,422	19,144	18,798	18,434	18,031	17,546	17,007	16,478
男	8,481	8,637	8,589	8,475	8,348	8,190	8,003	7,818	7,616	7,397	7,174	6,976
女	10,756	11,066	11,150	11,138	11,074	10,954	10,795	10,616	10,415	10,149	9,833	9,502
0~14歳	2,273	2,478	2,427	2,318	2,139	2,083	2,081	2,076	2,046	2,006	1,956	1,896
15~64歳	12,200	11,690	11,518	11,365	11,023	10,379	9,693	9,371	9,289	9,288	9,251	9,150
65歳~	4,764	5,535	5,794	5,930	6,260	6,682	7,024	6,987	6,696	6,252	5,800	5,432
年少人口割合(0~14歳)%	11.8	12.6	12.3	11.8	11.0	10.9	11.1	11.3	11.3	11.4	11.5	11.5
生産年齢人口割合(15~64歳)%	63.4	59.3	58.4	57.9	56.8	54.2	51.6	50.8	51.5	52.9	54.4	55.5
高齢人口割合(65歳~)%	24.8	28.1	29.4	30.2	32.2	34.9	37.4	37.9	37.1	35.6	34.1	33.0

(イ) 岩園小学校区 六麓荘町, 岩園町, 翠ヶ丘町, 親王塚町, 楠町

総人口は、平成 22 年（2010）の 12,567 人から平成 27 年（2015）は 12,930 人と微増するが、その後は微減傾向で推移し、平成 72 年（2060）は 11,022 人となり、平成 22 年（2010）に比べ 12%減少する。

年少人口（0 歳～14 歳）は、平成 22 年（2010）の 1,837 人から微減傾向で推移し、平成 72 年（2060）では 1,216 人となり、平成 22 年（2010）に比べて 34%減少する。生産年齢人口（15 歳～64 歳）は、平成 22 年（2010）の 7,769 人から減少傾向で推移し、平成 72 年（2060）では 5,819 人となり、平成 22 年（2010）に比べて 25%減少する。高齢人口（65 歳～）は、平成 22 年（2010）の 2,961 人から増加傾向で推移し、平成 57 年（2045）の 4,775 人をピークとしてその後は減少に転じ、平成 72 年（2060）では 3,987 人となり、平成 22 年（2010）と比べ 35%増加する。

年少人口割合（0 歳～14 歳）は平成 22 年（2010）の 14.6%から減少傾向で推移し、平成 72 年（2060）は 11.0%となる。生産年齢人口割合（15 歳～64 歳）は、平成 22 年（2010）の 61.8%から減少し、平成 57 年（2045）の 49.9%を底としてその後はやや増加し、平成 72 年（2060）は 52.8%となる。高齢人口割合（65 歳～）は、平成 22 年（2010）の 23.6%から増加傾向で推移し、平成 57 年（2045）の 39.3%をピークとしてその後は減少し、平成 72 年（2060）は 36.2%となる。

図 総人口の将来推計結果（岩園）

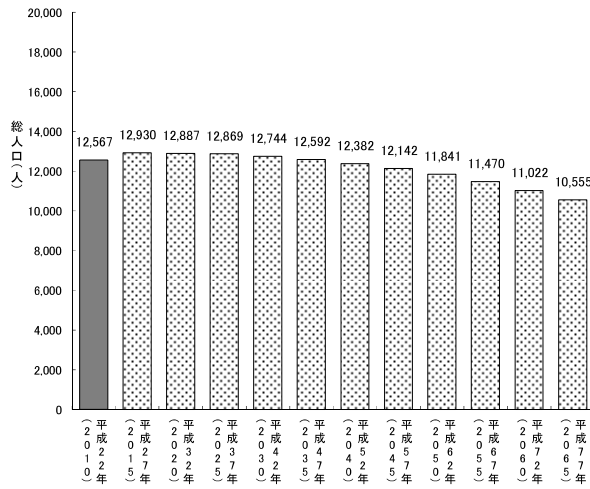


図 年齢3区分割合の将来推計結果（岩園）

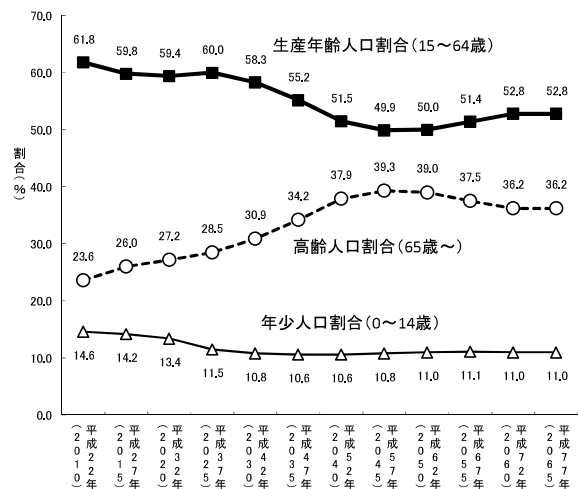


表 年齢3区分人口の将来推計結果（岩園）

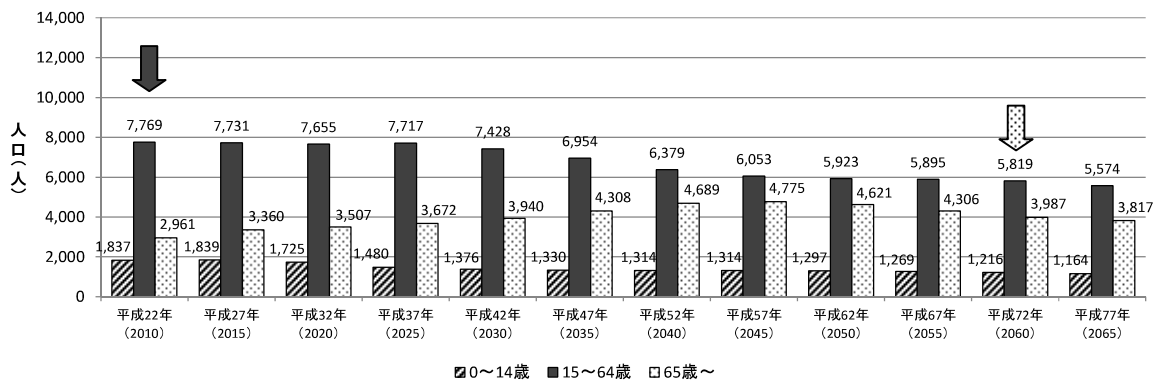


表 将来人口推計結果（岩園）

	実績人口 (国勢調査)	推計人口										
		平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口	12,567	12,930	12,887	12,869	12,744	12,592	12,382	12,142	11,841	11,470	11,022	10,555
人口 (人)	男	5,694	5,863	5,802	5,764	5,681	5,590	5,459	5,322	5,149	4,951	4,497
	女	6,873	7,067	7,085	7,105	7,063	7,002	6,923	6,820	6,692	6,519	6,302
0~14歳	1,837	1,839	1,725	1,480	1,376	1,330	1,314	1,314	1,297	1,269	1,216	1,164
15~64歳	7,769	7,731	7,655	7,717	7,428	6,954	6,379	6,053	5,923	5,895	5,819	5,574
65歳~	2,961	3,360	3,507	3,672	3,940	4,308	4,689	4,775	4,621	4,306	3,987	3,817
年少人口割合(0~14歳)%	14.6	14.2	13.4	11.5	10.8	10.6	10.6	10.8	11.0	11.1	11.0	11.0
生産年齢人口割合(15~64歳)%	61.8	59.8	59.4	60.0	58.3	55.2	51.5	49.9	50.0	51.4	52.8	52.8
高齢人口割合(65歳~)%	23.6	26.0	27.2	28.5	30.9	34.2	37.9	39.3	39.0	37.5	36.2	36.2

(ウ) 朝日ヶ丘小学校区 朝日ヶ丘町, 東山町

総人口は、平成 22 年（2010）の 9,285 人から平成 27 年（2015）は 9,328 人と微増するが、その後は微減傾向で推移し、平成 72 年（2060）は 6,528 人となり、平成 22 年（2010）に比べ 30%減少する。

年少人口（0 歳～14 歳）は、平成 22 年（2010）の 1,289 人から微減傾向で推移し、平成 72 年（2060）では 701 人となり、平成 22 年（2010）に比べて 46%減少する。生産年齢人口（15 歳～64 歳）は、平成 22 年（2010）の 5,943 人から減少傾向で推移し、平成 72 年（2060）では 3,270 人となり、平成 22 年（2010）に比べて 45%減少する。高齢人口（65 歳～）は、平成 22 年（2010）の 2,053 人から増加傾向で推移し、平成 52 年（2040）の 3,345 人をピークとしてその後は減少に転じ、平成 72 年（2060）では 2,557 人となり、平成 22 年（2010）と比べ 25%増加する。

年少人口割合（0 歳～14 歳）は、平成 22 年（2010）の 13.9%から減少傾向で推移し、平成 72 年（2060）は 10.7%となる。生産年齢人口割合（15 歳～64 歳）は、平成 22 年（2010）の 64.0%から減少し、平成 57 年（2045）の 47.5%を底としてその後はやや増加し、平成 72 年（2060）は 50.1%となる。高齢人口割合（65 歳～）は、平成 22 年（2010）の 22.1%から増加傾向で推移し、平成 57 年（2045）の 41.8%をピークとしてその後は減少し、平成 72 年（2060）は 39.2%となる。

図 総人口の将来推計結果（朝日ヶ丘）

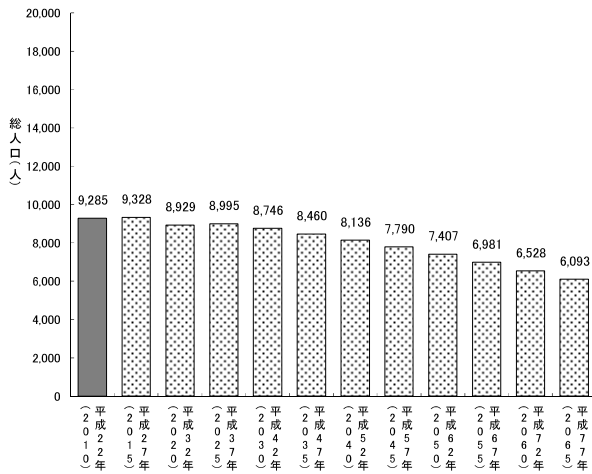


図 年齢3区分割合の将来推計結果（朝日ヶ丘）

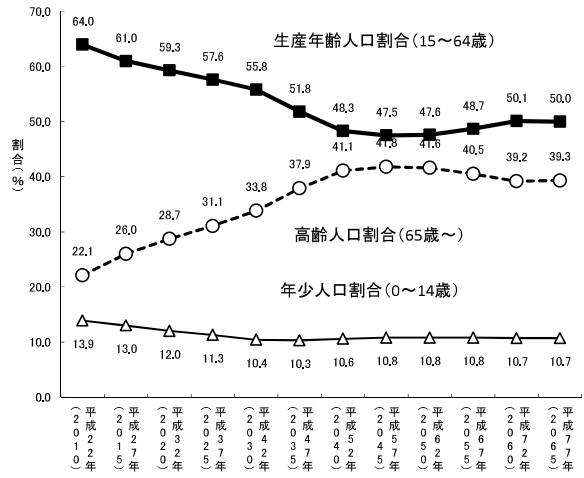


表 年齢3区分人口の将来推計結果（朝日ヶ丘）

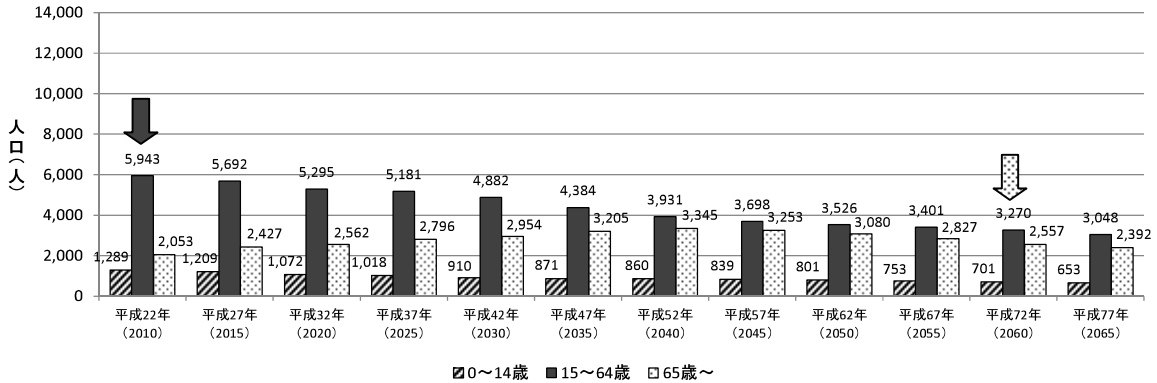


表 将来人口推計結果（朝日ヶ丘）

	実績人口 (国勢調査)	推計人口											
		平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)	平成77年 (2065)
人口 (人)	総人口	9,285	9,328	8,929	8,995	8,746	8,460	8,136	7,790	7,407	6,981	6,528	6,093
	男	4,278	4,238	4,001	3,975	3,818	3,657	3,482	3,306	3,113	2,907	2,698	2,503
	女	5,007	5,090	4,928	5,020	4,928	4,803	4,654	4,484	4,294	4,074	3,830	3,590
	0~14歳	1,289	1,209	1,072	1,018	910	871	860	839	801	753	701	653
	15~64歳	5,943	5,692	5,295	5,181	4,882	4,384	3,931	3,698	3,526	3,401	3,270	3,048
年少人口割合(0~14歳)%		13.9	13.0	12.0	11.3	10.4	10.3	10.6	10.8	10.8	10.7	10.7	
生産年齢人口割合(15~64歳)%		64.0	61.0	59.3	57.6	55.8	51.8	48.3	47.5	47.6	48.7	50.1	
高齢人口割合(65歳~)%		22.1	26.0	28.7	31.1	33.8	37.9	41.1	41.8	41.6	40.5	39.2	

(工) 精道小学校区

茶屋之町，大榭町，公光町，川西町，津知町，竹園町，精道町，
浜芦屋町，平田北町，伊勢町，松浜町，平田町

総人口は，平成 22 年（2010）の 12,935 人から平成 27 年（2015）は 13,052 人と微増するが，その後は微減傾向で推移し，平成 72 年（2060）は 10,056 人となり，平成 22 年（2010）に比べ 22%減少する。

年少人口（0 歳～14 歳）は，平成 22 年（2010）の 1,772 人から減少傾向で推移し，平成 72 年（2060）では 969 人となり，平成 22 年（2010）に比べて 45%減少する。生産年齢人口（15 歳～64 歳）は，平成 22 年（2010）の 8,453 人から減少傾向で推移し，平成 72 年（2060）では 5,362 人となり，平成 22 年（2010）に比べて 37%減少する。高齢人口（65 歳～）は，平成 22 年（2010）の 2,710 人から増加傾向で推移し，平成 52 年（2040）の 4,558 人をピークとしてその後は減少に転じ，平成 72 年（2060）では 3,725 人となり，平成 22 年（2010）と比べ 37%増加する。

年少人口割合（0 歳～14 歳）は，平成 22 年（2010）の 13.7%から減少傾向で推移し，平成 72 年（2060）は 9.6%となる。生産年齢人口割合（15 歳～64 歳）は，平成 22 年（2010）の 65.3%から減少し，平成 62 年（2050）の 50.5%を底としてその後はやや増加し，平成 72 年（2060）は 53.3%となる。高齢人口割合（65 歳～）は，平成 22 年（2010）の 21.0%から増加傾向で推移し，平成 62 年（2050）の 39.6%をピークとしてその後は減少し，平成 72 年（2060）は 37.0%となる。

図 総人口の将来推計結果（精道）

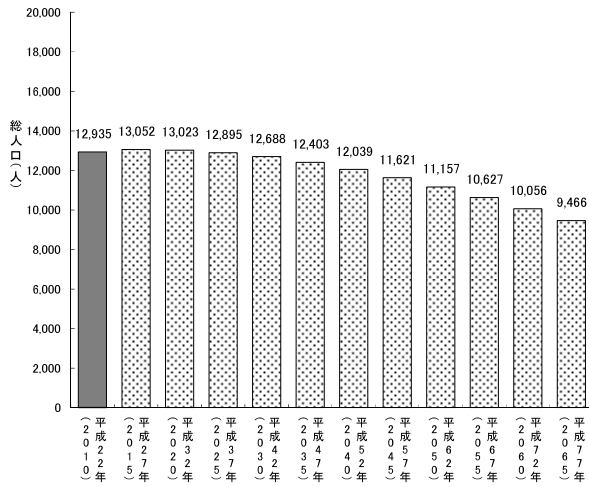


図 年齢3区分割合の将来推計結果（精道）

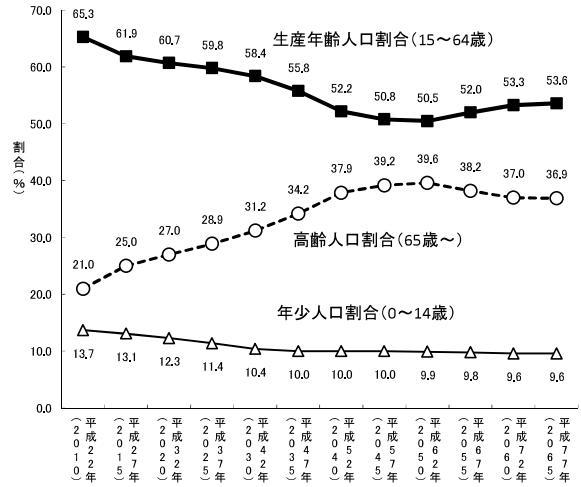


表 年齢3区分人口の将来推計結果（精道）

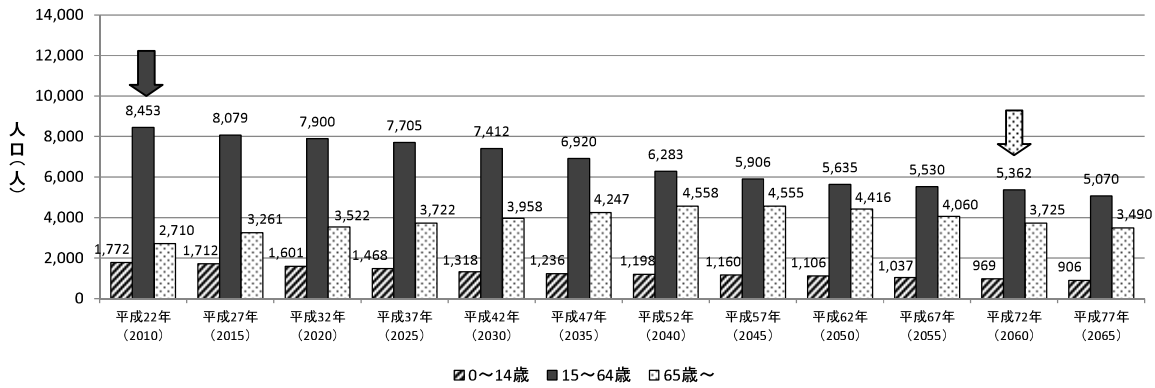


表 将来人口推計結果（精道）

	実績人口 (国勢調査)	推計人口											
		平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)	平成77年 (2065)
総人口	12,935	13,052	13,023	12,895	12,688	12,403	12,039	11,621	11,157	10,627	10,056	9,466	
人口(人)	男	5,881	5,916	5,889	5,812	5,703	5,562	5,397	5,207	4,999	4,765	4,289	
	女	7,054	7,136	7,134	7,083	6,985	6,841	6,642	6,414	6,158	5,862	5,532	5,177
	0~14歳	1,772	1,712	1,601	1,468	1,318	1,236	1,198	1,160	1,106	1,037	969	906
	15~64歳	8,453	8,079	7,900	7,705	7,412	6,920	6,283	5,906	5,635	5,530	5,362	5,070
	65歳~	2,710	3,261	3,522	3,722	3,958	4,247	4,558	4,555	4,416	4,060	3,725	3,490
	年少人口割合(0~14歳) %	13.7	13.1	12.3	11.4	10.4	10.0	10.0	10.0	9.9	9.8	9.6	9.6
	生産年齢人口割合(15~64歳) %	65.3	61.9	60.7	59.8	58.4	55.8	52.2	50.8	50.5	52.0	53.3	53.6
	高齢人口割合(65歳~) %	21.0	25.0	27.0	28.9	31.2	34.2	37.9	39.2	39.6	38.2	37.0	36.9

(オ) 宮川小学校区 打出小槌町, 宮塚町, 若宮町, 宮川町, 浜町, 西蔵町, 呉川町

総人口は, 平成 22 年 (2010) の 11,696 人から減少傾向で推移し, 平成 72 年 (2060) は 8,816 人となり, 平成 22 年 (2010) に比べ 25%減少する。

年少人口 (0 歳~14 歳) は, 平成 22 年 (2010) の 1,732 人から減少傾向で推移し, 平成 72 年 (2060) では 974 人となり, 平成 22 年 (2010) に比べて 44%減少する。生産年齢人口 (15 歳~64 歳) は, 平成 22 年 (2010) の 7,468 人から減少傾向で推移し, 平成 72 年 (2060) では 4,639 人となり, 平成 22 年 (2010) に比べて 38%減少する。高齢人口 (65 歳~) は, 平成 22 年 (2010) の 2,496 人から増加傾向で推移し, 平成 52 年 (2040) の 3,983 人をピークとしてその後は減少に転じ, 平成 72 年 (2060) では 3,203 人となり, 平成 22 年 (2010) と比べ 28%増加する。

年少人口割合 (0 歳~14 歳) は, 平成 22 年 (2010) の 14.8%から減少傾向で推移し, 平成 72 年 (2060) は 11.0%となる。生産年齢人口割合 (15 歳~64 歳) は, 平成 22 年 (2010) の 63.9%から減少し, 平成 62 年 (2050) の 49.6%を底としてその後はやや増加し, 平成 72 年 (2060) は 52.6%となる。高齢人口割合 (65 歳~) は, 平成 22 年 (2010) の 21.3%から増加傾向で推移し, 平成 62 年 (2050) の 39.3%をピークとしてその後は減少し, 平成 72 年 (2060) は 36.3%となる。

図 総人口の将来推計結果（宮川）

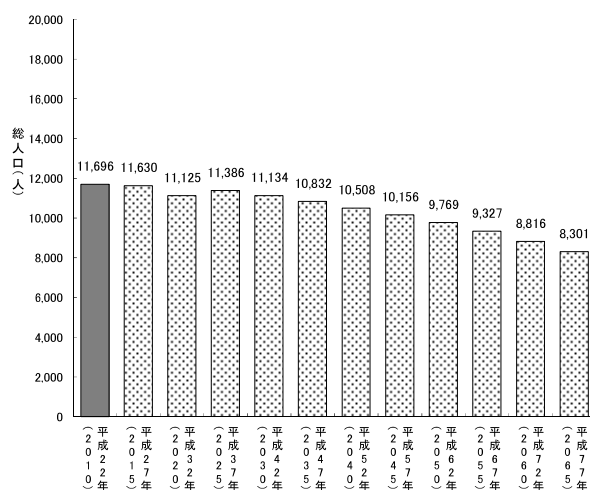


図 年齢3区分割合の将来推計結果（宮川）

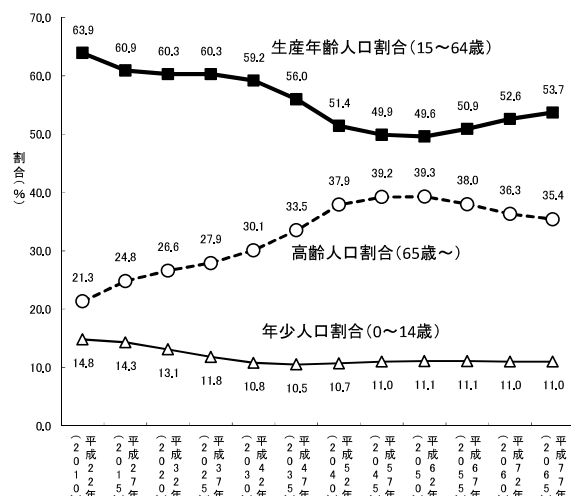


表 年齢3区分人口の将来推計結果（宮川）

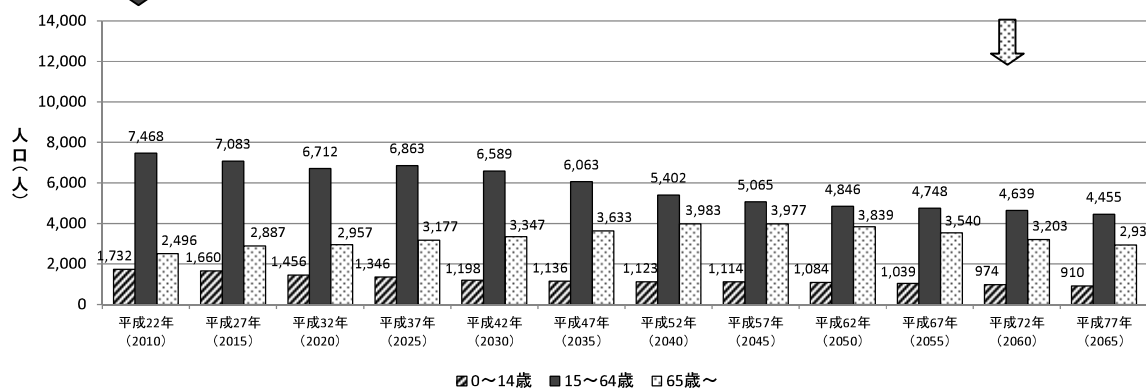


表 将来人口推計結果（宮川）

	実績人口 (国勢調査)	推計人口											
		平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)	平成77年 (2065)
人口 (人)	総人口	11,696	11,630	11,125	11,386	11,134	10,832	10,508	10,156	9,769	9,327	8,816	8,301
	男	5,420	5,339	5,094	5,183	5,029	4,864	4,707	4,538	4,347	4,130	3,895	3,672
	女	6,276	6,291	6,031	6,203	6,105	5,968	5,801	5,618	5,422	5,197	4,921	4,629
	0~14歳	1,732	1,660	1,456	1,346	1,198	1,136	1,123	1,114	1,084	1,039	974	910
	15~64歳	7,468	7,083	6,712	6,863	6,589	6,063	5,402	5,065	4,846	4,748	4,639	4,455
	65歳~	2,496	2,887	2,957	3,177	3,347	3,633	3,983	3,977	3,839	3,540	3,203	2,936
	年少人口割合(0~14歳) %	14.8	14.3	13.1	11.8	10.8	10.5	10.7	11.0	11.1	11.1	11.0	11.0
	生産年齢人口割合(15~64歳) %	63.9	60.9	60.3	60.3	59.2	56.0	51.4	49.9	49.6	50.9	52.6	53.7
	高齢人口割合(65歳~) %	21.3	24.8	26.6	27.9	30.1	33.5	37.9	39.2	39.3	38.0	36.3	35.4

(カ) 打出浜小学校区 春日町, 打出町, 南宮町, 大東町

総人口は、平成 22 年 (2010) の 9,879 人から減少傾向で推移し、平成 72 年 (2060) は 8,032 人となり、平成 22 年 (2010) に比べ 19%減少する。

年少人口 (0 歳~14 歳) は、平成 22 年 (2010) の 1,470 人から減少傾向で推移し、平成 72 年 (2060) では 857 人となり、平成 22 年 (2010) に比べて 42%減少する。生産年齢人口 (15 歳~64 歳) は、平成 22 年 (2010) の 6,332 人から減少傾向で推移し、平成 72 年 (2060) では 4,499 人となり、平成 22 年 (2010) に比べて 29%減少する。高齢人口 (65 歳~) は、平成 22 年 (2010) の 2,077 人から増加傾向で推移し、平成 57 年 (2045) の 3,275 人をピークとしてその後は減少に転じ、平成 72 年 (2060) では 2,676 人となり、平成 22 年 (2010) と比べ 29%増加する。

年少人口割合 (0 歳~14 歳) は、平成 22 年 (2010) の 14.9%から減少傾向で推移し、平成 72 年 (2060) は 10.7%となる。生産年齢人口割合 (15 歳~64 歳) は、平成 22 年 (2010) の 64.1%から減少し、平成 57 年 (2045) の 52.6%を底としてその後はやや増加し、平成 72 年 (2060) は 56.0%となる。高齢人口割合 (65 歳~) は、平成 22 年 (2010) の 21.0%から増加傾向で推移し、平成 57 年 (2045) の 36.4%をピークとしてその後は減少し、平成 72 年 (2060) は 33.3%となる。

図 総人口の将来推計結果（打出浜）

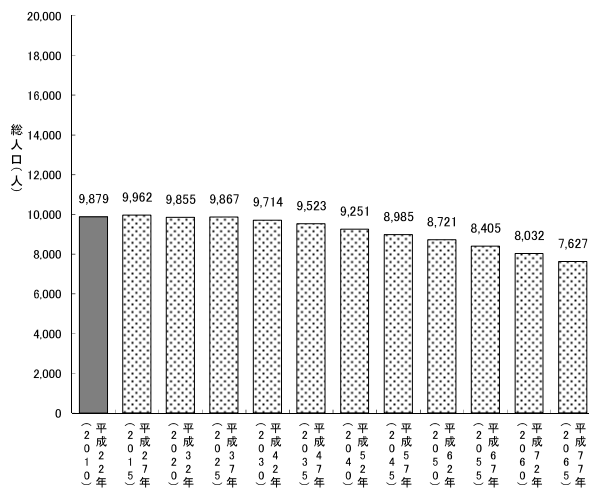


図 年齢3区分割合の将来推計結果（打出浜）

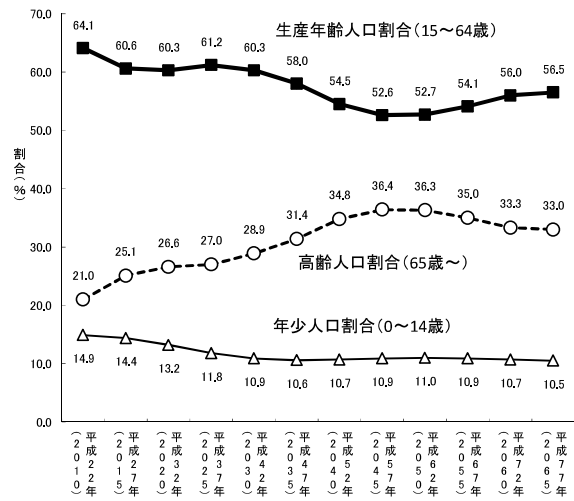


表 年齢3区分人口の将来推計結果（打出浜）

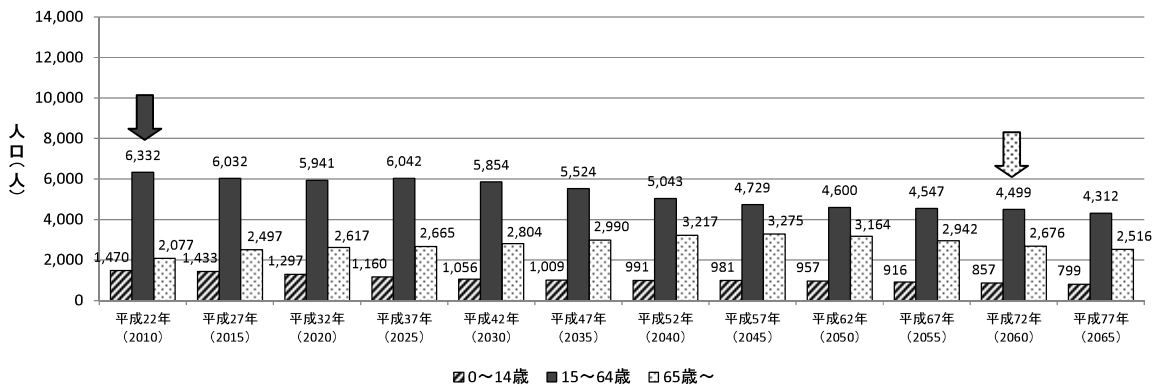


表 将来人口推計結果（打出浜）

	実績人口 (国勢調査)	推計人口										
		平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口	9,879	9,962	9,855	9,867	9,714	9,523	9,251	8,985	8,721	8,405	8,032	7,627
人口 (人)	男	4,579	4,551	4,469	4,439	4,352	4,253	4,128	4,000	3,877	3,734	3,573
	女	5,300	5,411	5,386	5,428	5,362	5,270	5,123	4,985	4,844	4,671	4,459
	0~14歳	1,470	1,433	1,297	1,160	1,056	1,009	991	981	957	916	857
	15~64歳	6,332	6,032	5,941	6,042	5,854	5,524	5,043	4,729	4,600	4,547	4,499
	65歳~	2,077	2,497	2,617	2,665	2,804	2,990	3,217	3,275	3,164	2,942	2,676
	年少人口割合(0~14歳) %	14.9	14.4	13.2	11.8	10.9	10.6	10.7	10.9	11.0	10.9	10.5
	生産年齢人口割合(15~64歳) %	64.1	60.6	60.3	61.2	60.3	58.0	54.5	52.6	52.7	54.1	56.5
	高齢人口割合(65歳~) %	21.0	25.1	26.6	27.0	28.9	31.4	34.8	36.4	36.3	35.0	33.0

(キ) 浜風小学校区 新浜町, 浜風町, 高浜町

総人口は、平成 22 年（2010）の 7,162 人から、平成 32 年の 7,591 人をピークとして以降は減少傾向で推移し、平成 72 年（2060）は 4,191 人となり、平成 22 年（2010）に比べ 41%減少する。

年少人口（0 歳～14 歳）は、平成 22 年（2010）の 812 人から減少傾向で推移し、平成 72 年（2060）では 356 人となり、平成 22 年（2010）に比べて 56%減少する。生産年齢人口（15 歳～64 歳）は、平成 22 年（2010）の 4,694 人から減少傾向で推移し、平成 72 年（2060）では 1,927 人となり、平成 22 年（2010）に比べて 59%減少する。高齢人口（65 歳～）は、平成 22 年（2010）の 1,656 人から増加傾向で推移し、平成 42 年（2030）の 2,703 人をピークとしてその後は減少に転じ、平成 72 年（2060）では 1,908 人となり、平成 22 年（2010）と比べ 15%増加する。

年少人口割合（0 歳～14 歳）は、平成 22 年（2010）の 11.3%から減少傾向で推移し、平成 72 年（2060）は 8.5%となる。生産年齢人口割合（15 歳～64 歳）は、平成 22 年（2010）の 65.5%から減少し、平成 72 年（2060）は 46.0%となる。高齢人口割合（65 歳～）は、平成 22 年（2010）の 23.1%から増加傾向で推移し、平成 72 年（2060）は 45.5%となる。

図 総人口の将来推計結果（浜風）

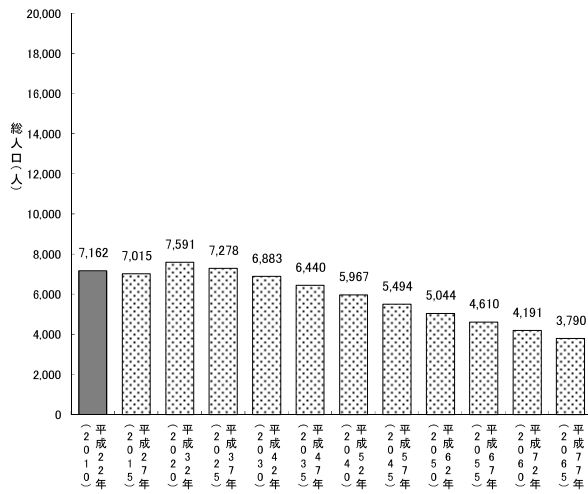


図 年齢3区分割合の将来推計結果（浜風）

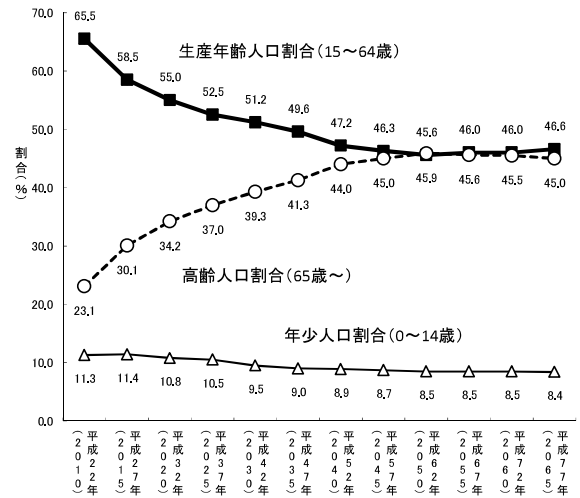


表 年齢3区分人口の将来推計結果（浜風）

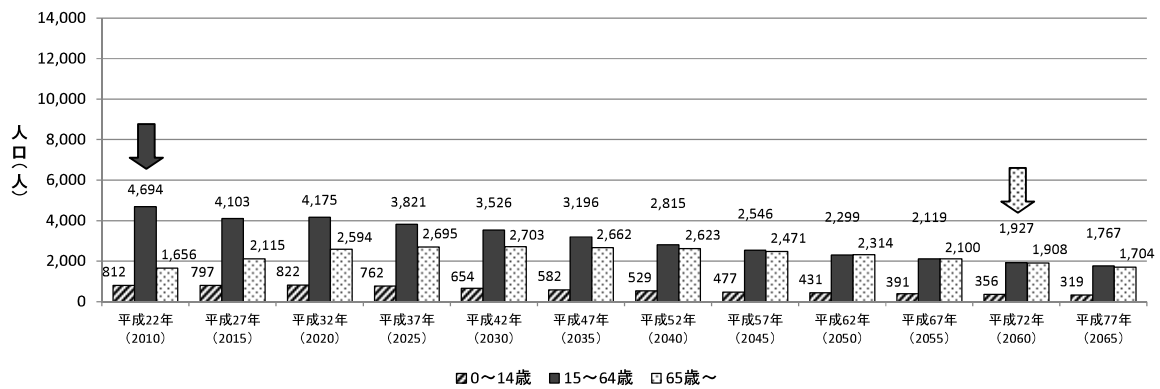


表 将来人口推計結果（浜風）

	実績人口 (国勢調査)	推計人口											
		平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)	平成77年 (2065)
総人口		7,162	7,015	7,591	7,278	6,883	6,440	5,967	5,494	5,044	4,610	4,191	3,790
男		3,292	3,215	3,458	3,297	3,098	2,883	2,665	2,455	2,265	2,086	1,911	1,746
女		3,870	3,800	4,133	3,981	3,785	3,557	3,302	3,039	2,779	2,524	2,280	2,044
0~14歳		812	797	822	762	654	582	529	477	431	391	356	319
15~64歳		4,694	4,103	4,175	3,821	3,526	3,196	2,815	2,546	2,299	2,119	1,927	1,767
65歳~		1,656	2,115	2,594	2,695	2,703	2,662	2,623	2,471	2,314	2,100	1,908	1,704
年少人口割合(0~14歳)%		11.3	11.4	10.8	10.5	9.5	9.0	8.9	8.7	8.5	8.5	8.5	8.4
生産年齢人口割合(15~64歳)%		65.5	58.5	55.0	52.5	51.2	49.6	47.2	46.3	45.6	46.0	46.0	46.6
高齢人口割合(65歳~)%		23.1	30.1	34.2	37.0	39.3	41.3	44.0	45.0	45.9	45.6	45.5	45.0

(ウ) 潮見小学校区（南芦屋浜地区を除く） 若葉町，緑町，潮見町

総人口は，平成 22 年（2010）の 6,184 人から減少傾向で推移し，平成 72 年（2060）は 2,251 人となり，平成 22 年（2010）に比べ 64%減少する。

年少人口（0 歳～14 歳）は，平成 22 年（2010）の 583 人から減少傾向で推移し，平成 72 年（2060）では 193 人となり，平成 22 年（2010）に比べて 67%減少する。生産年齢人口（15 歳～64 歳）は，平成 22 年（2010）の 3,807 人から減少傾向で推移し，平成 72 年（2060）では 978 人となり，平成 22 年（2010）に比べて 74%減少する。高齢人口（65 歳～）は，平成 22 年（2010）の 1,794 人から増加傾向で推移し，平成 72 年（2060）では 1,080 人となり，平成 22 年（2010）と比べ 40%減少する。

年少人口割合（0 歳～14 歳）は，平成 22 年（2010）の 9.4%から減少傾向で推移し，平成 72 年（2060）は 8.6%となる。生産年齢人口割合（15 歳～64 歳）は，平成 22 年（2010）の 61.6%から減少し，平成 72 年（2060）は 43.4%となる。高齢人口割合（65 歳～）は，平成 22 年（2010）の 29.0%から増加傾向で推移し，平成 57 年（2045）の 51.9%をピークとしてその後は減少傾向で推移し，平成 72 年（2060）は 48.0%となる。

図 総人口の将来推計結果（潮見）

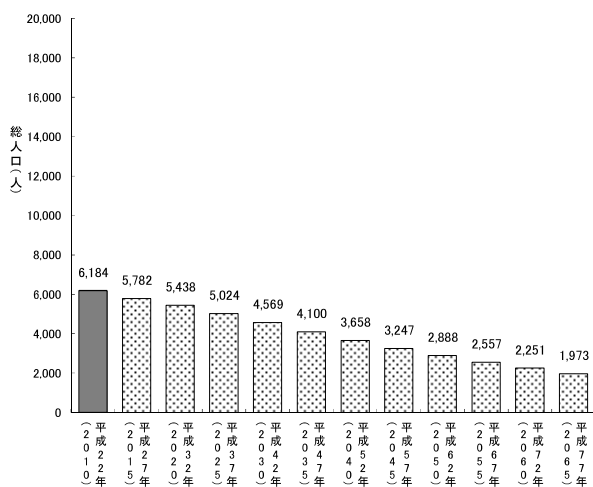


図 年齢3区分割合の将来推計結果（潮見）

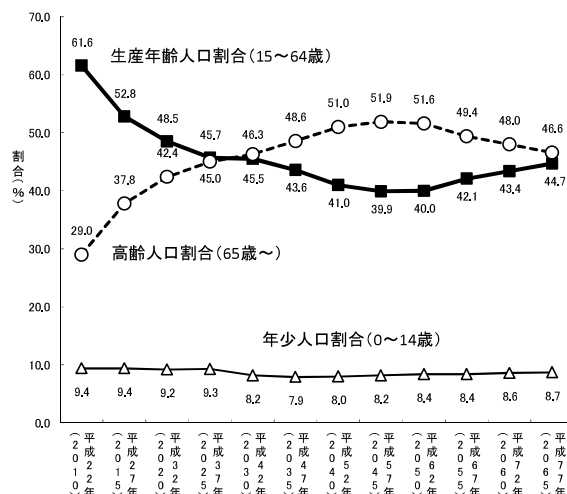


表 年齢3区分人口の将来推計結果（潮見）

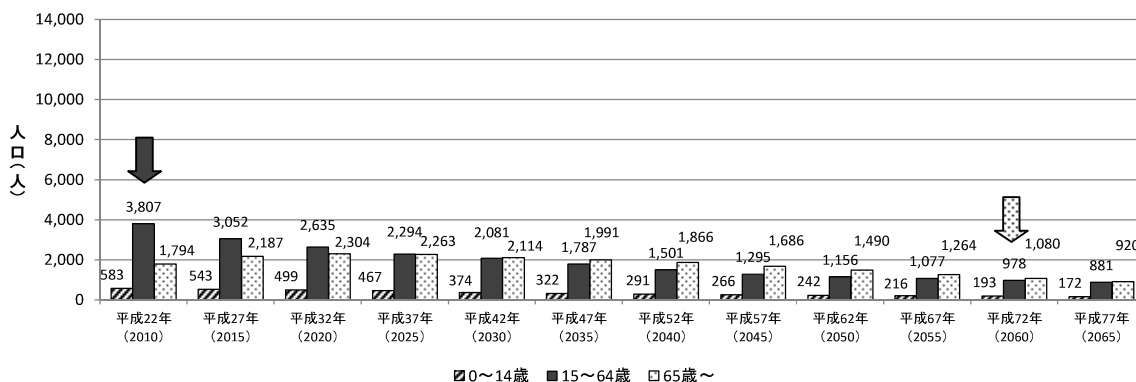


表 将来人口推計結果（潮見）

	実績人口 (国勢調査)	推計人口											
		平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)	平成77年 (2065)
人口(人)	総人口	6,184	5,782	5,438	5,024	4,569	4,100	3,658	3,247	2,888	2,557	2,251	1,973
	男	2,850	2,633	2,450	2,230	2,000	1,781	1,580	1,404	1,257	1,121	997	884
	女	3,334	3,149	2,988	2,794	2,569	2,319	2,078	1,843	1,631	1,436	1,254	1,089
	0~14歳	583	543	499	467	374	322	291	266	242	216	193	172
	15~64歳	3,807	3,052	2,635	2,294	2,081	1,787	1,501	1,295	1,156	1,077	978	881
	65歳~	1,794	2,187	2,304	2,263	2,114	1,991	1,866	1,686	1,490	1,264	1,080	920
年少人口割合(0~14歳) %		9.4	9.4	9.2	9.3	8.2	7.9	8.0	8.2	8.4	8.4	8.6	8.7
生産年齢人口割合(15~64歳) %		61.6	52.8	48.5	45.7	45.5	43.6	41.0	39.9	40.0	42.1	43.4	44.7
高齢人口割合(65歳~) %		29.0	37.8	42.4	45.0	46.3	48.6	51.0	51.9	51.6	49.4	48.0	46.6

(ケ) 南芦屋浜地区 陽光町, 海洋町, 涼風町, 南浜町

総人口は、平成 22 年 (2010) の 4,293 人から増加傾向で推移し、平成 37 年 (2025) の 8,124 人がピークとなり、その後は減少傾向で推移し、平成 72 年 (2060) は 5,945 人となり、平成 22 年 (2010) に比べ 38%増加する。

年少人口 (0 歳~14 歳) は、平成 22 年 (2010) の 873 人から増加傾向で推移し、平成 32 年の 954 人をピークとしてその後は減少傾向で推移し、平成 72 年 (2060) は 628 人となり平成 22 年 (2010) に比べて 28%減少する。生産年齢人口 (15 歳~64 歳) は、平成 22 年 (2010) の 2,314 人から増加傾向で推移し、平成 37 年 (2025) の 4,481 人をピークとしてその後は減少傾向で推移し、平成 72 年 (2060) では 3,106 人となり、平成 22 年 (2010) に比べて 34%増加する。高齢人口 (65 歳~) は、平成 22 年 (2010) の 1,106 人から増加傾向で推移し、平成 37 年 (2025) の 2,872 人をピークとしてその後は減少傾向で推移し、平成 72 年 (2060) では 2,211 人となり、平成 22 年 (2010) と比べ 100%増加する。

年少人口割合 (0 歳~14 歳) は、平成 22 年 (2010) の 20.3%から減少傾向で推移し、平成 72 年 (2060) は 10.6%となる。生産年齢人口割合 (15 歳~64 歳) は、平成 22 年 (2010) の 53.9%から減少していくが、平成 37 年 (2025) では増加に転じて 55.2%となり、平成 72 年 (2060) は 52.2%となる。高齢人口割合 (65 歳~) は、平成 22 年 (2010) の 25.8%から増加傾向で推移し、平成 62 年 (2050) の 40.3%をピークとしてその後は減少傾向で推移し、平成 72 年 (2060) は 37.2%となる。

図 総人口の将来推計結果（南芦屋浜）

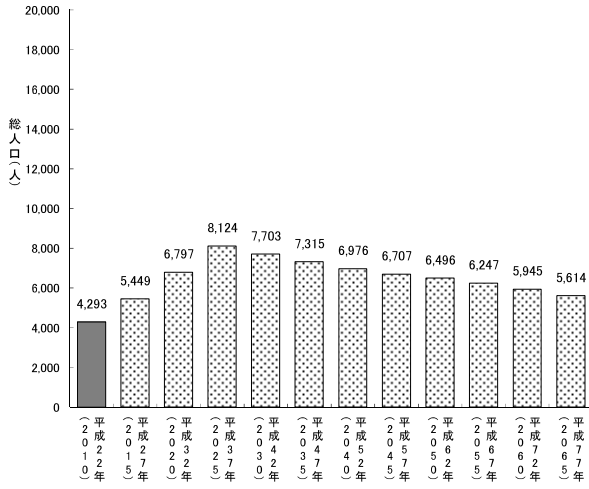


図 年齢3区分割合の将来推計結果（南芦屋浜）

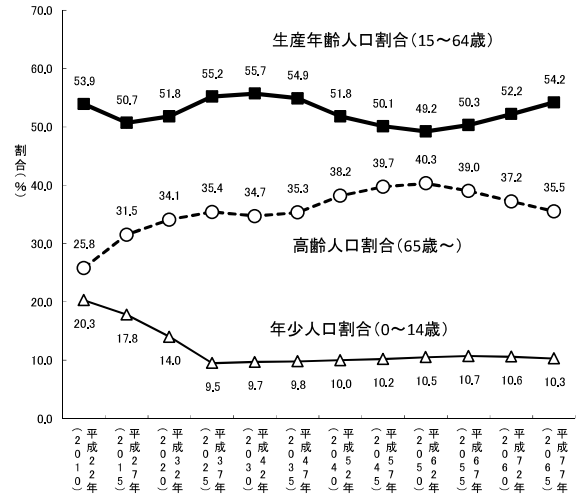


表 年齢3区分人口の将来推計結果（南芦屋浜）

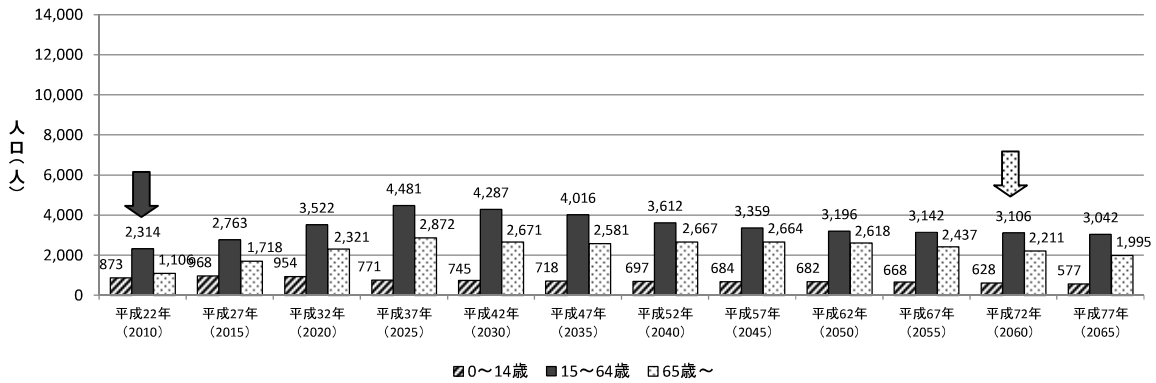


表 将来人口推計結果（南芦屋浜）

	実績人口 (国勢調査)	推計人口										
		平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成62年 (2050)	平成67年 (2055)	平成72年 (2060)
総人口	4,293	5,449	6,797	8,124	7,703	7,315	6,976	6,707	6,496	6,247	5,945	5,614
男	1,910	2,418	3,011	3,607	3,419	3,260	3,139	3,031	2,934	2,813	2,673	2,524
女	2,383	3,031	3,786	4,517	4,284	4,055	3,837	3,676	3,562	3,434	3,272	3,090
0~14歳	873	968	954	771	745	718	697	684	682	668	628	577
15~64歳	2,314	2,763	3,522	4,481	4,287	4,016	3,612	3,359	3,196	3,142	3,106	3,042
65歳~	1,106	1,718	2,321	2,872	2,671	2,581	2,667	2,664	2,618	2,437	2,211	1,995
年少人口割合(0~14歳)%	20.3	17.8	14.0	9.5	9.7	9.8	10.0	10.2	10.5	10.7	10.6	10.3
生産年齢人口割合(15~64歳)%	53.9	50.7	51.8	55.2	55.7	54.9	51.8	50.1	49.2	50.3	52.2	54.2
高齢人口割合(65歳~)%	25.8	31.5	34.1	35.4	34.7	35.3	38.2	39.7	40.3	39.0	37.2	35.5

発行 芦屋市 企画部 政策推進課

〒659-8501 芦屋市精道町7番6号

TEL(0797)38-2127

FAX(0797)31-4841